

# 八幡宮ノ後遺跡

—宅地建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2014

高崎市教育委員会  
加辺建設株式会社  
有限会社 毛野考古学研究所



## 例 言

1. 本書は、宅地建設に伴う八幡宮ノ後遺跡の埋蔵文化財調査報告書である。
2. 本遺跡は、群馬県高崎市八幡宮ノ後 700 番 2、701 番 1 に所在している。
3. 本調査および整理作業は、高崎市教育委員会が委託契約を締結した有限会社毛野考古学研究所の協力を得て実施した。
4. 発掘調査から整理作業を経て本書刊行に至る経費は、加辺建設株式会社に負担して頂いた。
5. 発掘調査の体制は、以下のとおりである。  
高崎市教育委員会                      田口一郎・田辺芳昭  
有限会社毛野考古学研究所      伊藤順一
6. 発掘調査は平成 26 年 4 月 14 日～平成 26 年 4 月 30 日、整理作業は、平成 26 年 5 月 1 日～平成 26 年 8 月 29 日の期間で実施した。
7. 本遺跡は、高崎市教育委員会の遺跡番号で「591」である。
8. 本書の執筆については I を田口、それ以外を伊藤が行った。
9. 本書に関わる資料は、一括して高崎市教育委員会が保管している。
10. 掘立柱建物跡の認定には群馬県教育委員会飯森康広氏に、中近世の遺物については玉村町教育委員会中島直樹氏にご教示いただいた。
11. 発掘調査・整理作業に携わった方々は以下の通りである。  
【発掘調査】  
青柳美保 篠崎英男 関根清子 高見壽美子 山本良太  
〔遺構測量〕 小出拓磨（有限会社毛野考古学研究所）  
【整理作業】  
池内麻美 小野沢絹子 武士久美子 伴場りく 深谷道子 真下弘美 山本良太
12. 発掘調査の実施から報告書の刊行に至る過程で下記の機関・諸氏にご協力賜わった。記して感謝申し上げる次第である。（敬称略、順不同）  
飯森康広 中島直樹 加辺建設株式会社 堀口公正 有限会社清水建材工業 株式会社 KELEK

## 凡 例

1. 挿図中の北方位は座標北を、断面水準線数値は海拔標高を示す。座標は世界測地系を用いている。
2. 遺構図および遺物実測図の縮尺については、図中にスケールを付して表示した。また、遺物写真は遺物実測図とほぼ同縮尺である。また、図に使用したスクリーントーンについてはそれぞれ凡例を示してある。
3. 土層および土器の色調観察は『新版 標準土色帖』（農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修 2006）を用いた。
4. 土層説明における含有物の量は、多量（50～30%）・中量（25～15%）・少量（10～5%）・微量（1～3%）と表記した。
5. 本書掲載の第 1 図は高崎市発行 1/2,500「高崎市都市計画基本図」、第 2 図は、国土地理院発行 1/25,000 地形図「下室田」・「富岡」を一部改変引用した。

## 目 次

例 言	V 検出された遺構と遺物	5
凡 例	1 遺跡の概要	5
目 次	2 竪穴住居跡	5
図表目次	3 掘立柱建物跡	6
写真図版目次	4 土坑	9
I 調査に至る経緯	5 溝	13
II 地理的・歴史的環境	6 配石遺構	14
1 地理的環境	7 ピット	15
2 歴史的環境	8 遺構外出土遺物	17
III 調査の方法と経過	VI まとめ	18
1 調査の方法	1 SD-01 について	18
2 調査の経過概要	2 掘立柱建物跡について	18
IV 基本層序	報告書抄録	
	奥付	

## 図表目次

第1図 調査区位置図	1	第11図 SK-01・02・03	10	第19図 掘立柱建物跡変遷図	18
第2図 周辺の遺跡	2	第12図 SK-05～08・10～13・15	11	第1表 SI-01 出土遺物観察表	6
第3図 全体図	4	～17・19		第2表 土坑一覧表(1)	9
第4図 基本層序	4	第13図 SK-20・22・23、SK-		第3表 土坑一覧表(2)	10
第5図 SI-01	5	01・02 出土遺物	12	第4表 SK-01・02 出土遺物観察表	12
第6図 SI-01 出土遺物	6	第14図 SD-01	13	第5表 SD-01 出土遺物観察表	14
第7図 SB-01	6	第15図 SD-01 出土遺物	14	第6表 ピット一覧表	15
第8図 SB-02	7	第16図 1・2号配石遺構	14	第7表 遺構外出土遺物観察表	17
第9図 SB-03・04	8	第17図 ピット群	16		
第10図 SB-05	9	第18図 遺構外出土遺物	17		

## 写真図版目次

PL1 調査区遠景	SK-02 全景	SK-20 全景
八幡八幡宮と調査地点	SK-03 全景	SK-22 全景
PL2 調査区全景	SK-06 全景	1号配石全景
掘立柱建物跡群	SK-07 全景	2号配石全景
PL3 SI-01・SD-01 全景	PL4 SK-08 土層断面	PL5 住居跡出土遺物
SD-01 底面ピット完掘状態	SK-10～13・19 全景	土坑出土遺物
SD-01 土層堆積状態	SK-15 全景	溝出土遺物
SK-01・05 全景	SK-17 全景	遺構外出土遺物

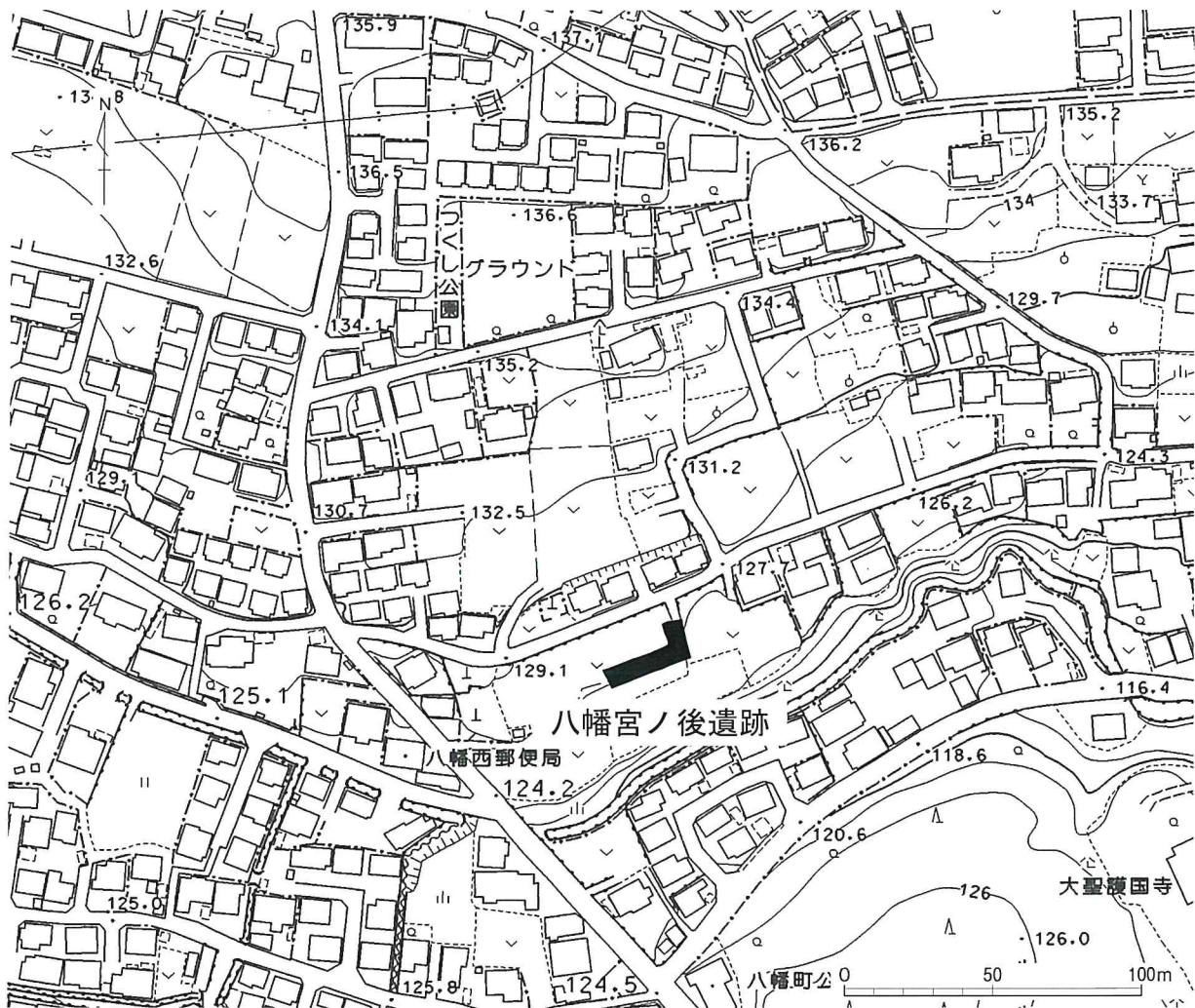
# I 調査に至る経緯

平成 25 年 12 月、加辺建設株式会社（以下事業者）より高崎市教育委員会（以下市教委）に分譲建設予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。市教委は、照会地は埋蔵文化財包蔵地であるため、試掘調査による確認を実施し工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

平成 26 年 1 月 14 日付けで事業者より試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は同年 1 月 30 日に工事予定地の試掘調査を実施し、古墳～平安時代の遺構・遺物を確認した。

試掘結果を受けて埋蔵文化財保護について事業者と協議を行ったが、計画変更は不可能ということなので、開発予定地の内擁壁による掘削建設部分について記録保存の発掘調査を行うことで合意した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監理の下、有限会社毛野考古学研究所に委託して実施することとなり、平成 26 年 4 月 3 日付けで高崎市教育長・事業者・毛野考古学研究所の三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成 26 年 4 月 3 日付けで事業者と毛野考古学研究所の二者で発掘調査委託契約が締結された。



第 1 図 調査区位置図

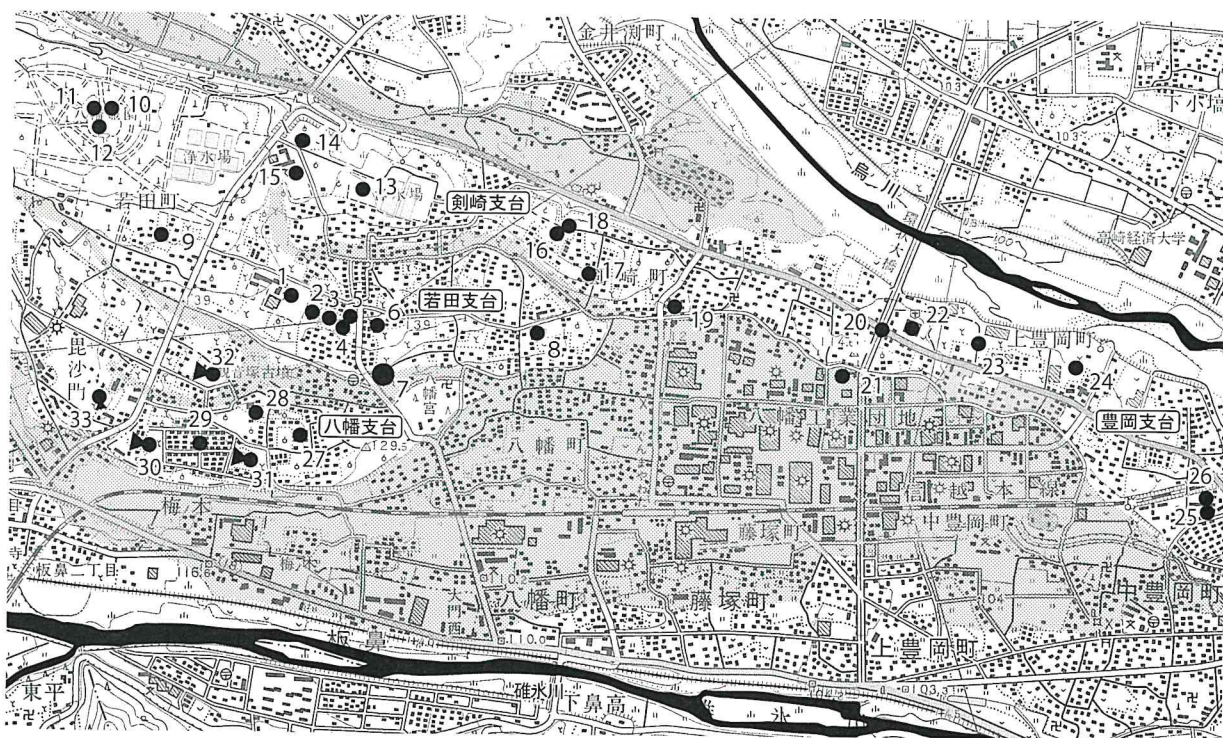
## II 地理的・歴史的環境

### 1 地理的環境

八幡宮ノ後遺跡は北側を烏川低地帯、南側を碓氷川低地帯に挟まれた「八幡台地」上に立地する。八幡台地は西から延びる秋間丘陵の先端部にあたり、その南北両側を東流する烏川、碓氷川によって急峻な河岸段丘が形成される。八幡台地は東西に延びる小支谷により北から「剣崎支台」、「若田支台」、「八幡支台」に分けられ、本遺跡は若田支台の南端部に位置し、標高は125～126 mを測る。

### 2 歴史的環境

本遺跡が立地する八幡台地は八幡中原遺跡（1～5）・七五三引遺跡（6）に代表されるように古墳時代から古代に至る大規模集落として知られている。このことは当地が東山道駅路「牛掘・矢ノ原ルート」と「国府ルート」の分岐点にあたる交通の要衝としての性格に起因するものと考えられている。近年の調査では八幡中原遺跡第3次調査地点（3）において掘り込み地業や礎石と考えられる大型礫が確認されているほか、八幡六枚遺跡（27）では「片置（岡郡）」と線刻された須恵器大甕片が住居跡より出土しており片岡郡衛との関連性も指摘されている。中世においては遺物は散見されるものの遺構数は少なく、八幡二子塚遺跡（31）においてかわらけを伴う土坑や井戸が検出されているほか、八幡中原遺跡第3次調査地点において内耳鍋が出土した溝が確認されている。



1. 八幡中原遺跡第1次調査地点 2. 八幡中原遺跡第2次調査地点 3. 八幡中原遺跡第3次調査地点 4. 八幡中原遺跡第4次調査地点 5. 八幡中原遺跡第5次調査地点 6. 七五三引遺跡 7. 八幡宮ノ後遺跡 8. 剣崎六万坊遺跡 9. 若田屋敷裏Ⅰ・Ⅱ遺跡 10. 若田大塚古墳 11. 檜ノ木古墳 12. 若田原遺跡群 13. 剣崎長瀬西遺跡 14. 剣崎長瀬西古墳 15. 大島原遺跡 16. 剣崎稲荷塚遺跡 17. 剣崎稲荷塚遺跡2 18. 剣崎稲荷塚遺跡3 19. 剣崎天神山古墳 20. 引間Ⅰ・Ⅱ遺跡 21. 引間Ⅲ遺跡 22. 上豊岡引間Ⅳ遺跡 23. 引間Ⅴ遺跡 24. 上豊岡引間遺跡6 25. 豊岡後原Ⅰ・Ⅱ遺跡 26. 下豊岡後原Ⅲ遺跡 27. 八幡六枚遺跡 28. 四ノ市遺跡 29. 八幡遺跡 30. 平塚古墳 31. 二子塚古墳 八幡二子塚遺跡 32. 観音塚古墳 33. 龍的塚古墳

第2図 周辺の遺跡

### Ⅲ 調査の方法と経過

#### 1 調査の方法

発掘調査は、試掘結果に基づき 0.45 バックホウで表土を除去し遺構確認面を検出した。

各遺構については土層観察用のベルトを残しながら移植ゴテ・スコップを用いて掘削を行った。調査の進捗ごとに随時写真撮影を行い、平面図・断面図の作成をあわせて行った。遺構平面図の作成にはトータルステーションを、断面図は主に手実測によって作成し、一部をトータルステーションを用いて実測した。出土遺物はトータルステーションによって平面位置や標高を記録して取り上げ、微細な遺物に関しては可能な限り、簡易な出土位置を記録して取り上げた。写真撮影には 35mm 判のフィルムカメラ（Nikon FM2: モノクロ・リバーサル）と 1,200 万画素相当のコンパクトデジタルカメラ（Canon IXY 120）を使用した。調査区全体の空撮にはラジコンヘリを使用し、6×7判のフィルムカメラ（モノクロ・リバーサル）と 1000 万画素相当のデジタル一眼レフカメラ（Canon EOS Kiss X3）を使用した。

整理調査にあたっては遺構図面に修正を加えたのち、各遺構ごとに Adobe illustrator CS2 を用いてデジタルトレースを行った。出土遺物は洗浄・注記作業を行ったのち、遺構単位で土器を中心に接合作業および実測個体の抽出作業を実施した。接合にはセメダイン C を使用した。遺物の写真撮影には 1,000 万画素相当のデジタル一眼レフカメラ（Nikon D7000）を使用した。写真ファイルは各遺構ごとに整理し、Adobe Photoshop 6 および Adobe illustrator CS2 を用いて縮尺の変更・写真の切り抜きを行った。写真撮影の完了後、遺物の実測・トレース作業を実施した。これらの図面・写真・原稿を Adobe InDesign CS2 によって編集した。

#### 2 調査の経過概要

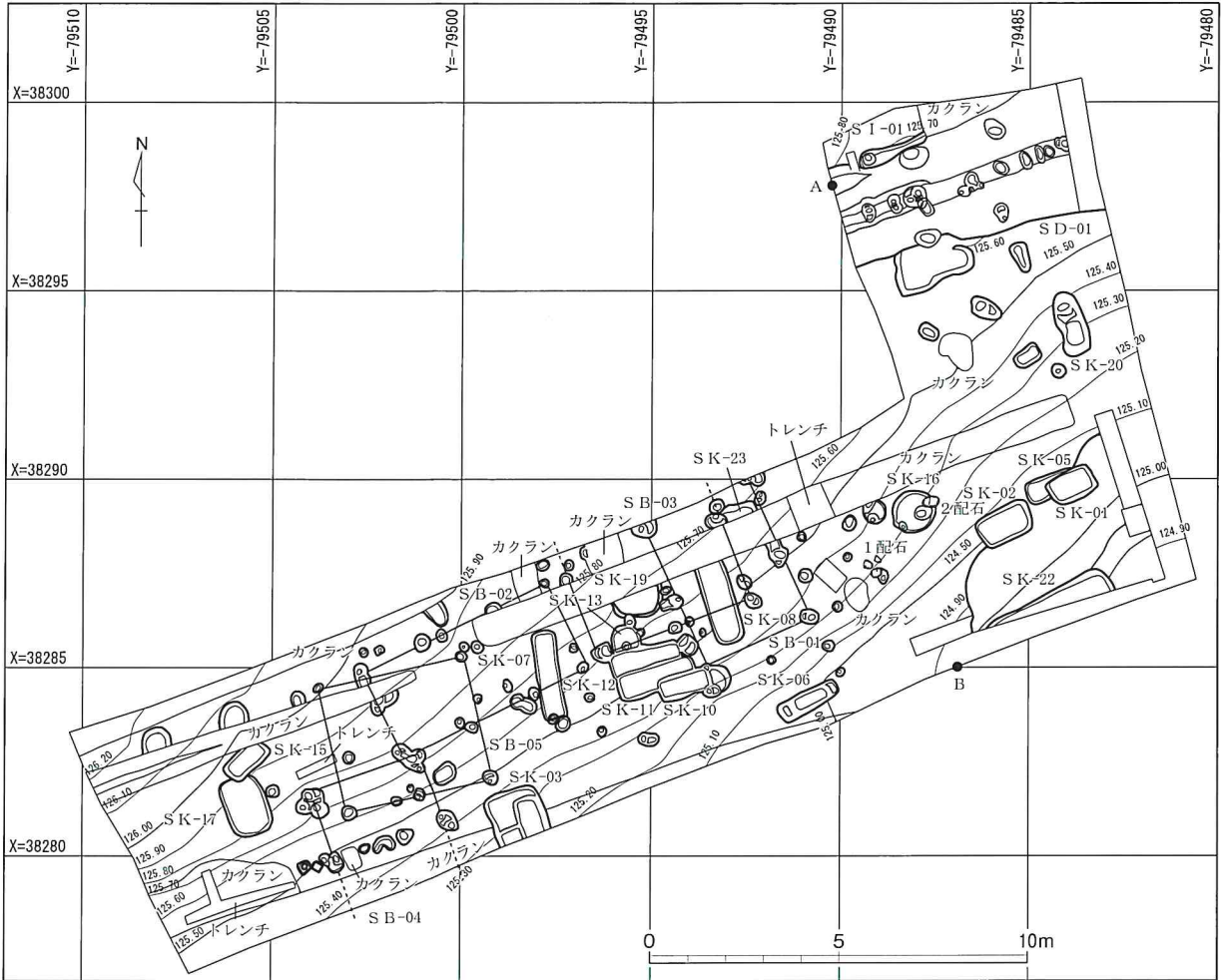
現地での発掘調査は平成 26 年 4 月 14 日～4 月 30 日、整理調査は平成 26 年 5 月 1 日～8 月 29 日まで行った。

##### (1) 発掘調査の経過

4 月 14 日：重機掘削を開始する。人力による遺構精査を開始する。15 日：SD-01 の掘削を開始する（～17 日）。16 日：遺構断面測量を開始する。土坑・ピットの掘削を開始する。17 日：土坑・ピットの調査を継続する。18 日：小雨が終日降り続く中調査を行う。19～23 日：土坑・ピットの調査を継続する。遺構平面・断面測量を継続する。24 日：高崎市教育委員会による完了検査を実施。空撮に備え調査区内の清掃を行う。25 日：ラジコンヘリによる空撮を実施。発掘機材の撤収を行い現地における作業を終了する。

##### (2) 整理調査の経過

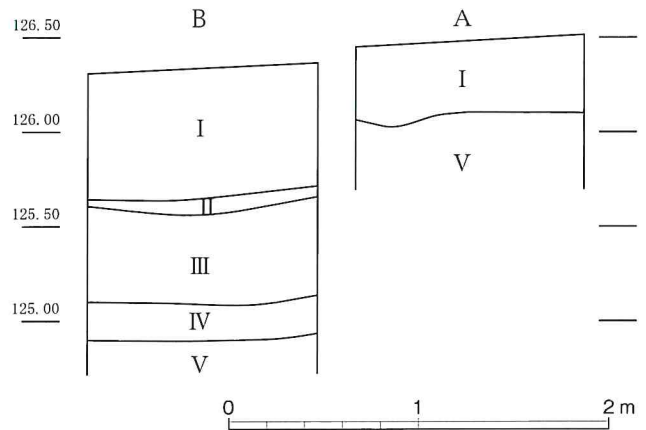
平成 26 年 5 月 1 日：基礎整理・出土遺物の水洗い・注記作業（～30 日）。平成 26 年 6 月 1 日：遺構図の修正（～30 日）、遺物の接合作業開始（～7 日）。6 月 14 日：遺物写真撮影・遺構図トレースの開始（～30 日）。16 日：遺物実測作業開始（～6 月 25 日）。6 月 26 日：原稿執筆および編集作業を開始する（～7 月 31 日）。7 月 1 日：遺物図のトレースを行う（～8 日）。8 月 5 日：原稿を入稿し、以降、校正作業を行う。8 月 29 日：印刷製本が完了。納本を行う。



第3図 全体図

#### IV 基本層序

S D - 01 の壁面及び調査区南側で基本層序を確認した。調査区は南側の谷部へ向かって傾斜している。調査区南東部ではA s - Aの一次堆積層が一部認められたほか、地形の変化点が明瞭に捉えられた。I層は表土である。A s - A及びA s - Bを多量に含む。II層はA s - Aの一次堆積層である。A s - Bに比べ粒径が大きい。なお、A s - Bの一次堆積層はS D 01内で認められた。III層はA s - B軽石を含む黒褐色層である。IV層は暗褐色層で黄色軽石を少量含む。V層は黄色軽石を主体とした層である。調査区の大半ではII～IV層は削平されており、表土直下でV層が露出する。



第4図 基本層序



## V 検出された遺構と遺物

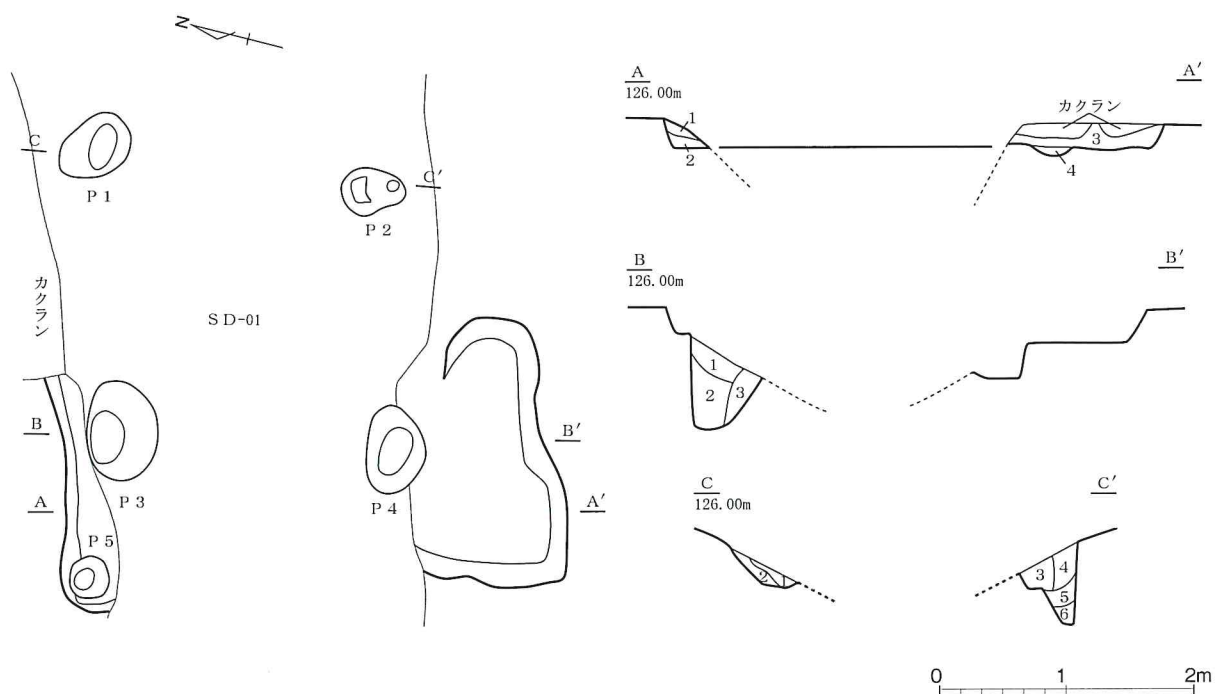
### 1 遺跡の概要

今回の調査では竪穴住居跡1軒、掘立柱建物跡5棟、土坑18基、溝1条、ピット96基、配石遺構2基を確認した。遺構の覆土には竪穴住居跡(SI-01)、溝(SD-01)を除いて全てAs-B(1108年降下)ないしAs-A(1783年降下)を含んでいる。掘立柱建物跡・土坑・ピットからの出土遺物は少なく詳細な時期の特定は困難であった。

### 2 竪穴住居跡

#### SI-01 (第5・6図)

位置：X = 38300、Y = -79490 グリッド。平面形態：隅丸方形もしくは隅丸長方形と想定される。重複：SD-01と重複し、切り合い関係から本遺構が古い。北東部は攪乱により削平されている。規模：一×4.00m。残存深度：24.7cm。主軸方位：一。柱穴：4基の主柱穴と考えられるピットが検出された。規模はP1：54.0×48.0cm・深度24cm、P2：51.0×39.0cm・深度66.0cm、P3：78.0×57.0cm・深度75.0cm、P4：72.0×48.0cm・深度30.0cmである。床面の状態：やや凹凸が認められた。カマド：検出されなかった。遺構埋没状態：白色軽石・黄色軽石を含んだ黒褐色土が自然堆積していた。遺物出土状態：北西部で集中して出土した。時期：古墳時代中期(5世紀後半)と想定される。遺物：土師器(坏・甕)



#### A-A'

1. 黒褐色土(10YR3/2): 白色軽石・黄色軽石・ロームブロック(0.5~3cm)中量、焼土・炭化物微量。
2. 暗褐色土(10YR3/3): しまりあり粘性ある。黄色軽石多量、炭化物少量。
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3): しまりあり粘性ある。ロームブロック(1~3cm)多量、3層ブロック(0.5~1cm)中量、黄色軽石少量。
4. 黒褐色土(10YR3/2): しまり弱く粘性ある。ローム粒・黄色軽石多量。

#### B-B'

1. 黒褐色土(10YR3/2): しまり弱く粘性弱い。黄色軽石・ロームブロック(0.5~1cm)少量。

2. 暗褐色土(10YR3/3): しまり弱く粘性弱い。ローム粒多量、黄色軽石・ロームブロック(1~3cm)微量。
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3): しまりあり粘性ある。ローム粒多量、黒色土ブロック(1~3cm)少量、黄色軽石微量。

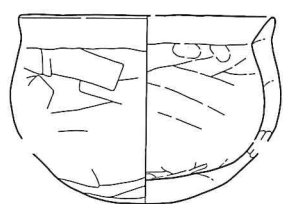
#### C-C'

1. にぶい黄褐色土(10YR4/3): しまりあり粘性ある。黒色土ブロック(1~2cm)中量、黄色軽石・ローム粒少量。
2. にぶい黄褐色土(10YR5/3): しまりあり粘性ある。黄色軽石・ロームブロック(0.5~1cm)少量、黒色土ブロック(0.5~1cm)微量。

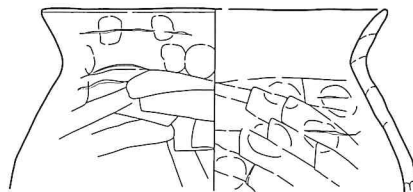
第5図 SI-01

3. 黒褐色土(10YR3/2):しまり弱く粘性ある。黄色軽石多量。  
 4. 暗褐色土(10YR3/3):しまり弱く粘性ある。黄色軽石多量、ロームブロック(3~5cm)少量。

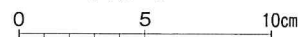
5. にぶい黄褐色土(10YR4/3):しまり弱く粘性ある。黄色軽石多量。  
 6. にぶい黄褐色土(10YR4/3):しまりあり粘性ある。ローム粒中量、黄色軽石少量。



S I 01-1



S I 01-2



第6図 S I - 01 出土遺物

第1表 S I - 01 出土遺物観察表

遺構No.	遺物No.	器種	法量	①施成(石材)②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
S I - 01	1	土師器 坏	口径 (10.0) 底径 — 器高 (7.4)	①酸化焰②明赤褐 ③石英・角閃石・褐色粒・黒色粒 ④口縁部片・体部下半破片	外面:口縁部横位ナデ。体部ヘラケズリ。 内面:口縁部横位ナデ。体部ヘラナデ。頸部に指頭圧痕。	
	2	土師器 甕	口径 (13.6) 底径 — 器高 [7.2]	①酸化焰②にぶい赤褐 ③角閃石・チャート・褐色粒 ④口縁~体部上位 1/4	外面:口縁部指頭圧痕後横位ナデ。体部ヘラケズリ。輪積痕が残る。 内面:口縁部横位ナデ。体部指頭圧痕後ヘラナデ。輪積痕が残る。	

### 3 掘立柱建物跡

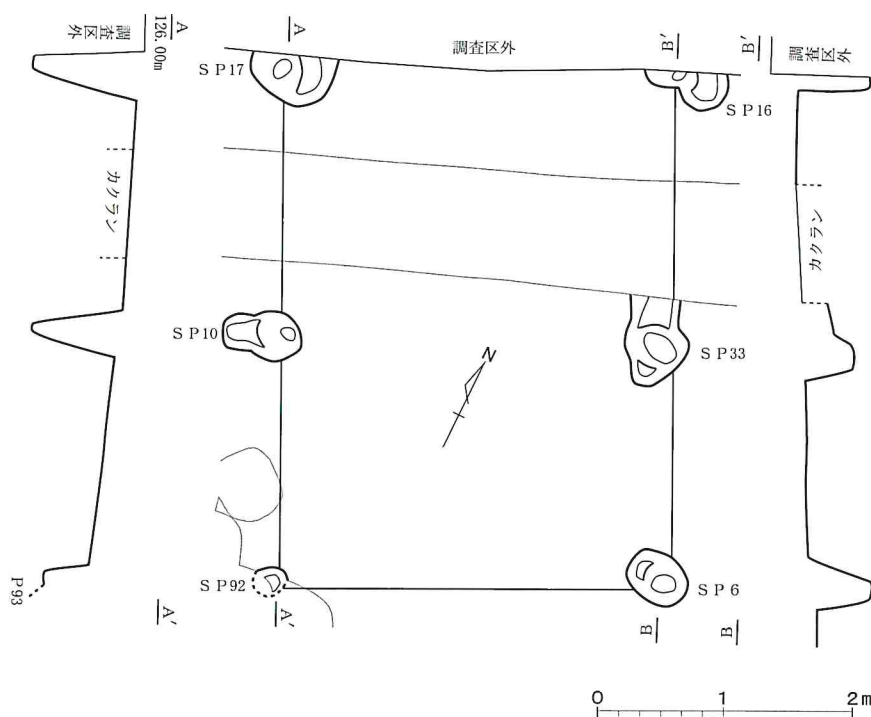
5棟の掘立柱建物跡が確認された。埋没土にはいずれもA s - BないしA s - Aを含んでいる。出土遺物が少なく詳細な帰属時期については不明であるが、埋没土及び遺構形態から勘案すると5棟とも中世~近世に帰属するものと考えられる。なお各ピットの計測値については後述する「IV-7ピット」に示した。

#### SB-01 (第7図)

位置: X = 38290、Y =

-79495・-79500 グリッド。

重複: SK-10と重複し、切り合い関係から本遺構が古い。SP 33は攪乱により削平されており、SP 16・17は調査区外に延びる。平面形・柱間: 1間×2間以上の側柱式南北棟と想定される。平面形は長方形と想定される。規模: 桁行東西4.08m、梁行南柱間3.06m。主軸(桁行)方位: N - 76° - E。柱穴の形状: 平面形は楕円形ないし不整形な楕円形、断面形状は逆台形状を呈し、テラス

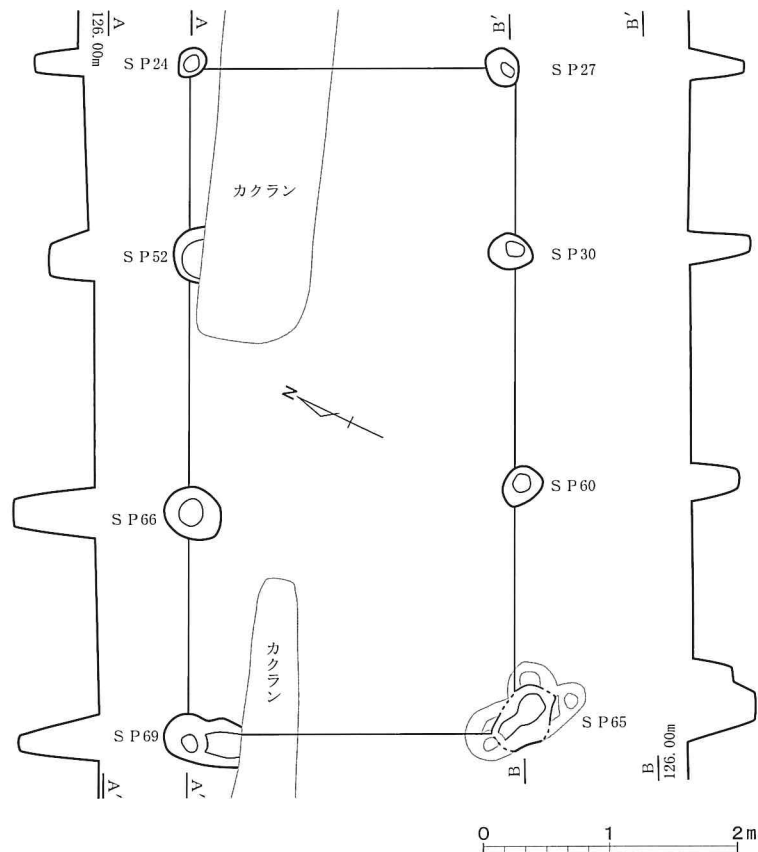


第7図 SB-01

が認められるものもある。出土遺物：遺物は出土しなかった。

### SB-02 (第8図)

位置：X = 38280・38285、Y = -79500・-79505グリッド。重複：SB-04・05と重複し、切り合い関係からSB-04より本遺構が新しい。SB-05との新旧関係は不明である。SP52は攪乱により削平されている。平面形・柱間：1間×3間の側柱式東西棟と想定される。平面形は長方形を呈する。規模：桁行北辺5.40m、桁行南辺5.16m、梁行西柱間2.58m、梁行東柱間2.52m。主軸(桁行)方位：N-63°-E。柱穴の形状：平面形は円形ないし楕円形、断面形状は逆台形状を呈し、テラスが認められるものもある。出土遺物：遺物は出土しなかった。



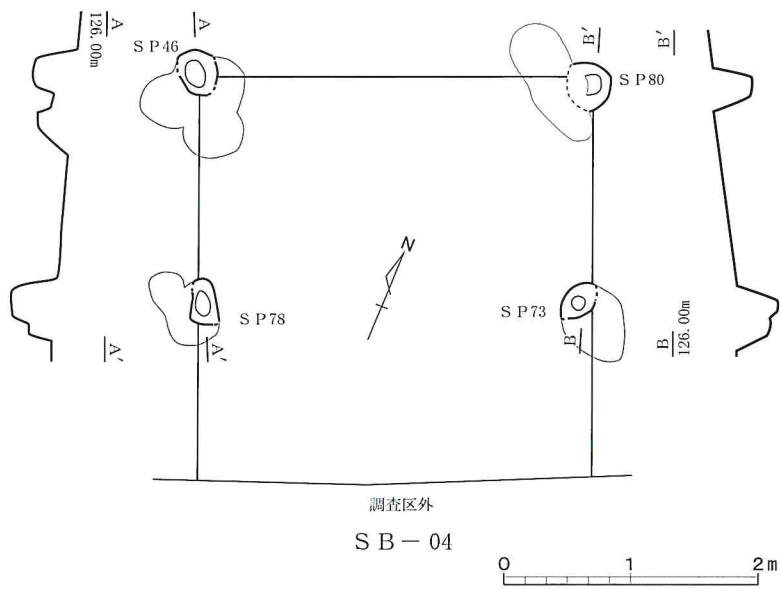
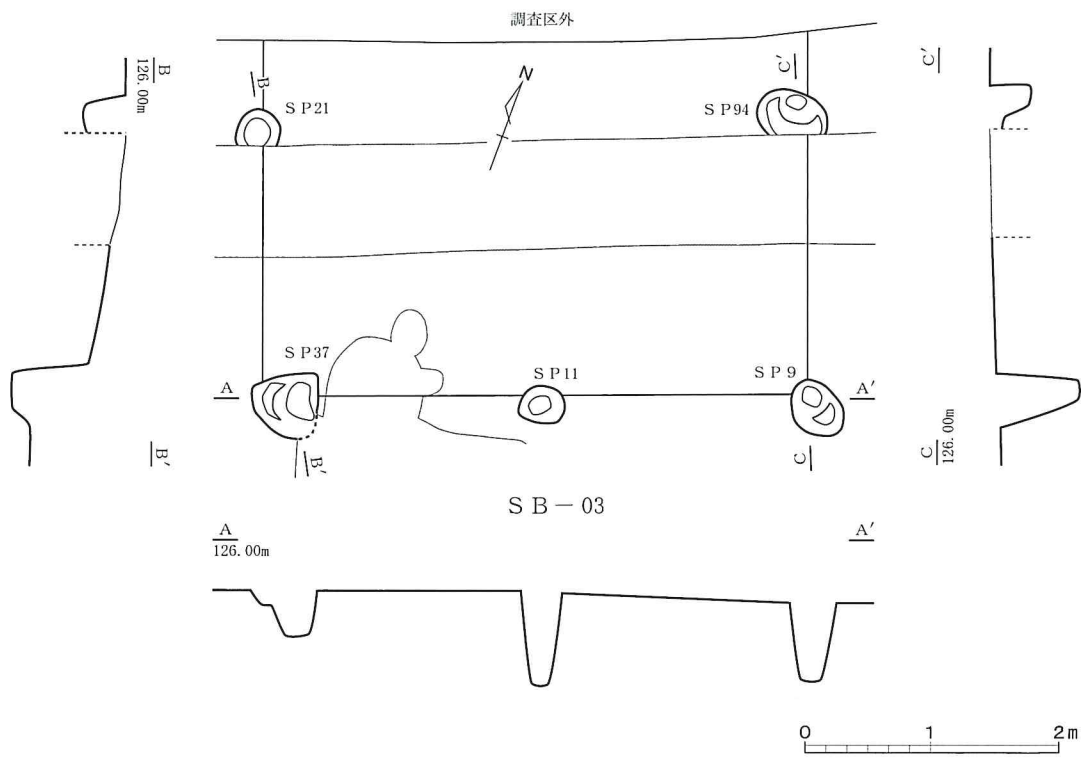
第8図 SB-02

### SB-03 (第9図)

位置：X = 38280・38285、Y = -79500・-79505グリッド。重複：SB-01、SK-12・23と重複し、切り合い関係からSK-12・23より新しい。SB-01との新旧関係は不明である。SP21・94は攪乱により削平されている。また、北側に遺構の範囲が及ぶことが想定される。平面形・柱間：2間×2間以上の側柱式南北棟と想定される。平面形は長方形と想定される。規模：桁行西辺2.48m以上、桁行東辺2.88m以上、梁行南辺4.02m。主軸(桁行)方位：N-20°-W。柱穴の形状：平面形は円形・楕円形・不整形、断面形状は逆台形状を呈し、テラスが認められるものもある。出土遺物：遺物は出土しなかった。

### SB-04 (第9図)

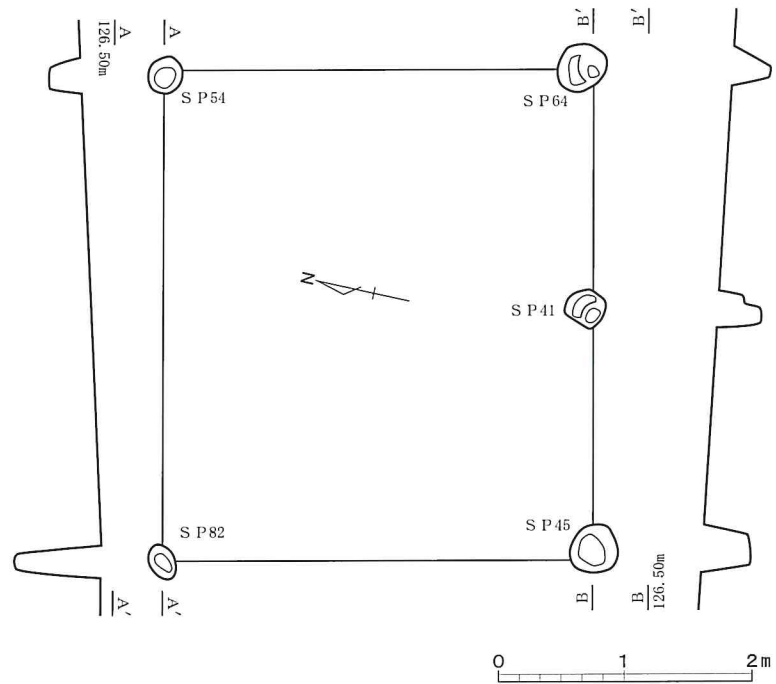
位置：X = 38280、38275、Y = -79505グリッド。重複：SB-02・05と重複し、切り合い関係からSB-02より本遺構が古い。SB-05との新旧関係は不明である。また、南側に遺構の範囲が及ぶことが想定される。平面形・柱間：1間×2間以上の側柱式南北棟と想定される。平面形は長方形と想定される。規模：桁行西辺3.24m以上、桁行東辺3.12m以上、梁行北柱間3.12m。主軸(桁行)方位：N-22°-W。柱穴の形状：平面形は楕円形、断面形状は逆台形状を呈し、テラスが認められるものもある。出土遺物：遺物は出土しなかった。



第9図 SB-03・04

SB-05 (第10図)

位置：X = 38280・38285、Y = -79500・-79505 グリッド。重複：SB-02・04と重複するが新旧関係は不明である。平面形・柱間：東西1間・2間×南北1間の側柱式東西棟と想定される。平面形は長方形を呈する。規模：桁行北辺3.90m、桁行南辺3.81m、梁行西柱間3.36m、梁行東柱間3.42m。主軸(桁行)方位：N-75°-E。柱穴の形状：平面形は円形ないし楕円形、断面形状は逆台形状を呈し、テラスが認められるものもある。出土遺物：遺物は出土しなかった。



第10図 SB-05

4 土坑

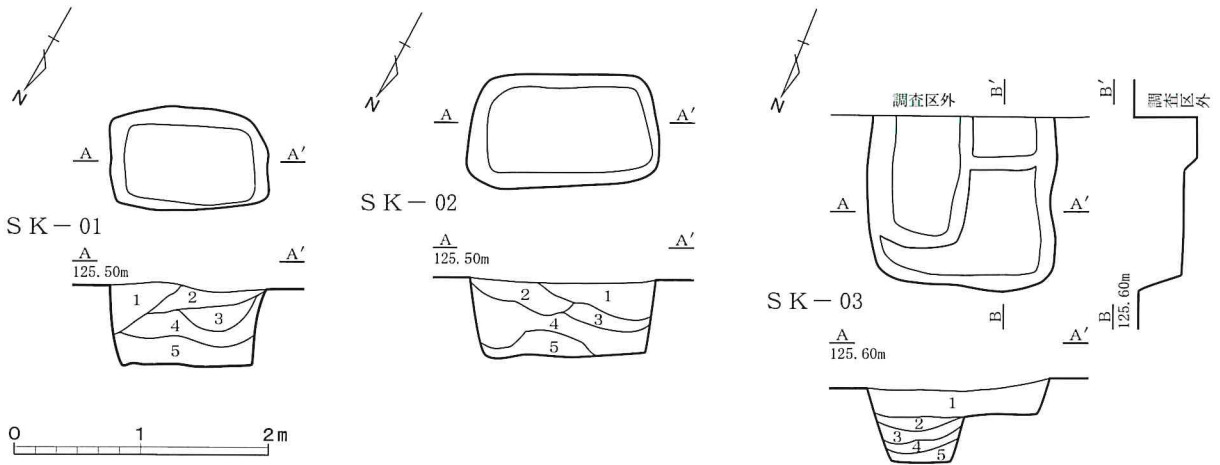
土坑は18基検出されており、平面形が隅丸長方形を呈するものが大半を占める。埋没土にはAs-BないしAs-Aを含んでおり、掘立柱建物跡や他のピットの埋没土と類似する。SK-01では近世期に帰属する棧瓦の軒丸部分が、SK-02ではやはり近世期に帰属する瀬戸・美濃の鉢が出土している。他の土坑については土師器小片が混入して出土するのみであった。SK-03、10・11・12は繰り返し同じ箇所土坑を掘削した状況が看取された。帰属時期については埋没土及び出土遺物から中世～近世期に帰属するものと想定される。各遺構の計測値については第2・3表に示した。なお、SK-04・09・14・18・21については欠番である。

第2表 土坑一覧表(1)

遺構名	位置	形態		規模	深さ	長軸方位	備考
		平面	断面				
SK-01	X=38290、38295 Y=-79485	隅丸長方形	箱形	1.24×0.8	0.64	N-62°-E	棧瓦の軒丸部分出土。
SK-02	X=38290 Y=-79485・-79490	隅丸長方形	箱形	1.52×0.94	0.6	N-62°-E	瀬戸・美濃の鉢出土。
SK-03	X=38285 Y=-79500	(隅丸長方形)	箱形	(1.42)×1.52	0.64	N-19°-W	3回以上の掘り直し。
SK-05	X=38290、38295 Y=-79485、-79490	(隅丸長方形)	箱形	(1.38)×0.66	0.16	N-70°-E	SK-01より古い。
SK-06	X=38285 Y=-79495	隅丸長方形	逆台形	1.72×0.6	0.58	N-62°-E	
SK-07	X=38285、38290 Y=-79500	隅丸長方形	逆台形	2.42×0.66	0.14	N-9°-W	SP7・8より新しい。
SK-08	X=38290 Y=-79495	(隅丸長方形)	(逆台形)	(2.24)×0.82	0.24	N-18°-W	北側はカクランにより削平。

第3表 土坑一覧表(2)

遺構名	位置	形態		規模	深さ	長軸方位	備考
		平面	断面				
SK-10	X =38285 Y =-79495	隅丸長方形	箱形	1.46×0.72	0.46	N-75° - E	3回の掘り直し。SK-11、SP36より古くSP93より新しい。
SK-11	X =38285、38290 Y =-79495、-79500	隅丸長方形	箱形	2.12×0.80	0.42	N-71° - E	3回の掘り直し。SK-10・12より新しい。
SK-12	X =38285、38290 Y =-79495、-79500	隅丸長方形	箱形	1.88×(0.68)	0.38	N-73° - E	3回以上の掘り直し。SK-11、SP37・91より古く、SK-13より新しい。
SK-13	X =38290 Y =-79500	—	箱形	0.80×(0.69)	0.31	—	SK-12、SP33より古く、SP63より新しい。
SK-15	X =38285 Y =-79495	隅丸長方形	皿形	1.28×0.68	0.08	N-44° - E	SK-17より新しい。北側はカクランにより削平。
SK-16	X =38290 Y =-79490	円形	逆台形	1.17×1.11	0.26	—	SP2、2号配石より古く、SP1より新しい。
SK-17	X =38285 Y =-79510	隅丸長方形	箱形	1.67×1.16	0.42	N-22° - W	SK-15より古い。
SK-19	X =38290 Y =-79495、-79500	—	—	1.40×(0.78)	0.08	—	SP10・38・49より古い。北側はカクランにより削平。
SK-20	X =38295 Y =-79485	楕円形	逆台形	1.72×0.78	0.38	N-16° - W	
SK-22	X =38290 Y =-79485、-79490	(隅丸長方形)	逆台形	(3.5)×(0.82)	0.62	N-73° - E	SX-01より新しい。南側に範囲が及ぶ。
SK-23	X =38290 Y =-79495	—	(逆台形)	1.04×(0.4)	0.10	—	SP32・94より古い。南側はカクランにより削平。



SK-01

1. 暗褐色土(10YR3/3): しまりなく粘性弱い。白色軽石多量、ロームブロック(1~3cm)少量、黄色軽石微量。
2. 暗褐色土(10YR3/3): しまりなく粘性弱い。白色軽石多量、黄色軽石少量。
3. 黒褐色土(10YR3/2): しまりなく粘性弱い。白色軽石多量、ロームブロック(1~3cm)、黄色軽石中量。
4. 暗褐色土(10YR3/3): しまりなく粘性弱い。白色軽石多量、黄色軽石少量、ロームブロック(1~3cm)微量。
5. 暗褐色土(10YR3/3): しまりなく粘性弱い。白色軽石・ロームブロック(1~3cm)多量、黄色軽石少量。

SK-02

1. 暗褐色土(10YR3/3): しまりなく粘性弱い。白色軽石多量、ロームブロック(1~3cm)少量、黄色軽石微量。
2. 暗褐色土(10YR3/3): しまりなく粘性弱い。白色軽石・黄色軽石多量、ロームブロック(1~3cm)少量。
3. 黒褐色土(10YR3/2): しまりなく粘性弱い。白色軽石多量、ロームブロック(0.5~

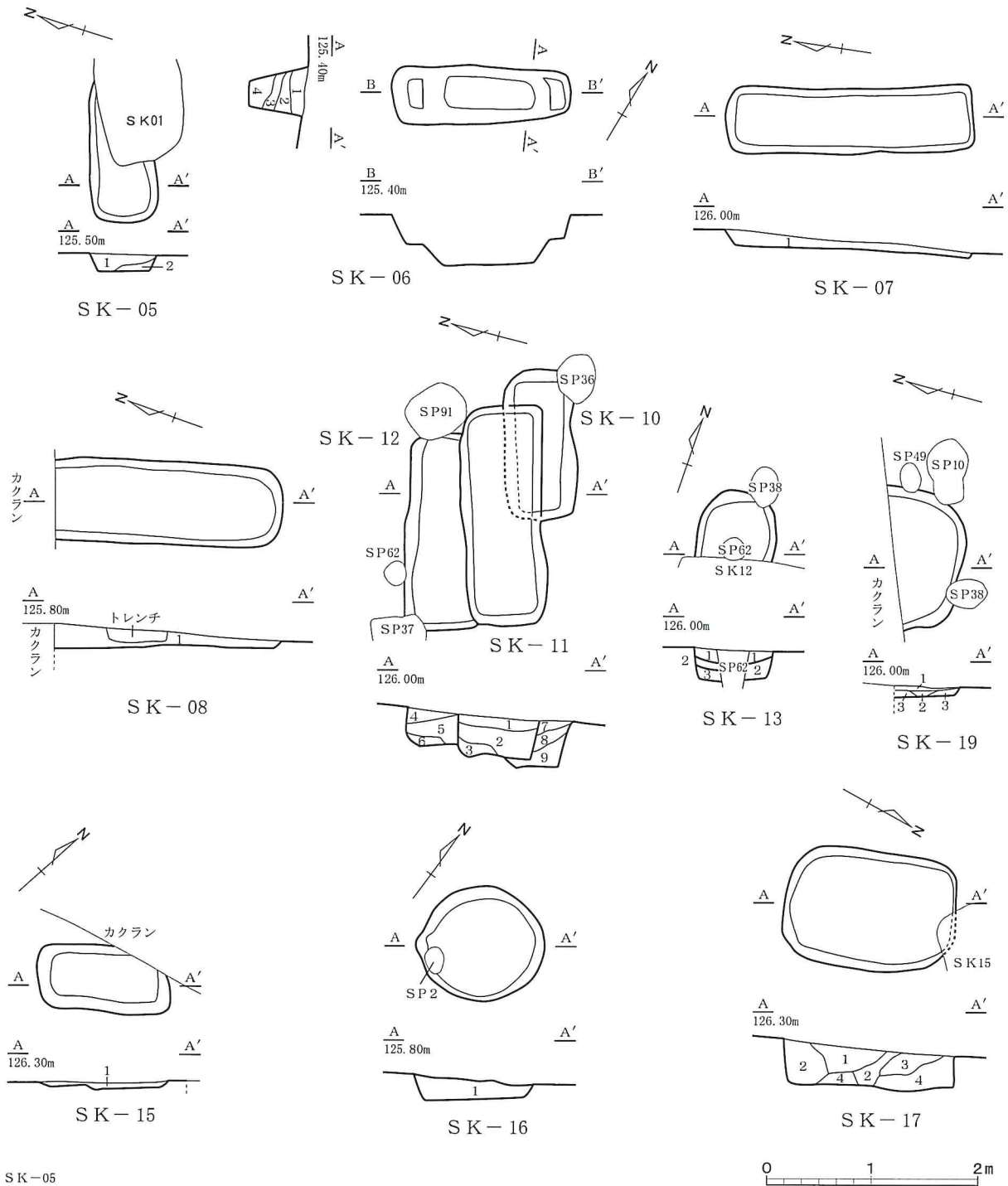
1cm)微量。

4. 暗褐色土(10YR3/3): しまりなく粘性弱い。白色軽石・ロームブロック(1~5cm)多量、黄色軽石中量。
5. 暗褐色土(10YR3/3): しまりなく粘性弱い。白色軽石多量、ロームブロック(1~10cm)・黄色軽石少量。

SK-03

1. にぶい黄褐色土(10YR5/4): しまりなく粘性ない。白色軽石多量、ロームブロック(1cm未満)・黄色軽石少量。
2. にぶい黄褐色土(10YR5/4): しまりあり粘性弱い。白色軽石・ロームブロック(1~3cm)・黄色軽石多量。
3. にぶい黄褐色土(10YR5/4): しまりあり粘性ある。白色軽石・ロームブロック(3~5cm)・黄色軽石多量。
4. にぶい黄褐色土(10YR5/3): しまり弱く粘性ある。白色軽石・ロームブロック(1~3cm)・黄色軽石少量。
5. にぶい黄褐色土(10YR5/4): しまりあり粘性ある。ロームブロック(1~3cm)・黄色軽石中量、白色軽石少量。

第11図 SK-01・02・03



SK-05

1. 褐灰色土(10YR4/1): しまりなく粘性ない。白色軽石多量。
2. 褐灰色土(10YR4/1): しまりなく粘性ない。白色軽石多量、黄色軽石少量。

SK-06

1. 暗褐色土(10YR3/3): しまり弱く粘性ある。白色軽石・黄色軽石多量、ロームブロック(1~5cm)少量。
2. 暗褐色土(10YR3/3): しまり弱く粘性ある。白色軽石・黄色軽石多量、ロームブロック(1~10cm)少量。
3. 暗褐色土(10YR3/3): しまり弱く粘性ある。白色軽石・黄色軽石多量。
4. 暗褐色土(10YR3/3): 白色軽石・黄色軽石・ロームブロック(1~5cm)多量。

SK-07

1. 褐灰色土(10YR4/1): しまり弱く粘性弱い。白色軽石多量、黄色軽石・ロームブロック(1~5cm)少量。

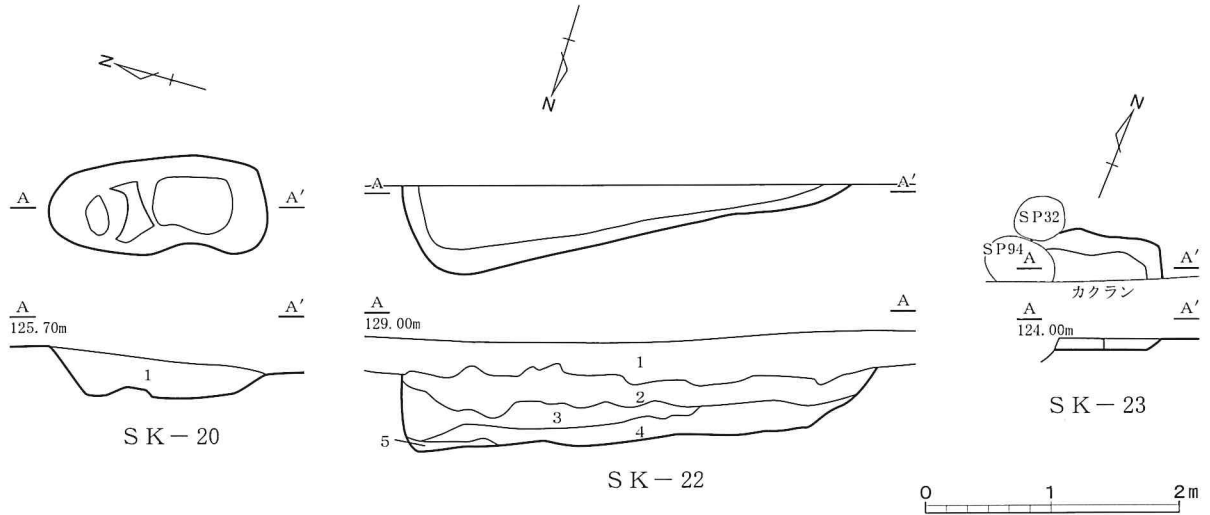
SK-08

1. 褐灰色土(10YR4/1): しまりなく粘性ない。白色軽石多量、黄色軽石・ロームブロック(1~5cm)少量。

SK-10・11・12

1. 褐灰色土(10YR4/1): しまりなく粘性ない。白色軽石・黄色軽石多量。
2. 褐灰色土(10YR4/1): しまりなく粘性ない。白色軽石多量、黄色軽石中量。
3. 暗褐色土(10YR3/3): しまりなく粘性ない。白色軽石多量、黄色軽石中量。
4. 褐灰色土(10YR4/1): しまりなく粘性ない。白色軽石多量、黄色軽石中量。
5. 褐灰色土(10YR4/1): しまりなく粘性ない。白色軽石・黄色軽石ブロック(0.5~3cm)多量。
6. 褐灰色土(10YR4/1): しまりなく粘性ない。白色軽石多量、黄色軽石中量、黄色軽石ブロック(0.5~3cm)・ロームブロック(0.5~1cm)少量。
7. 暗褐色土(10YR3/3): しまりなく粘性ない。白色軽石多量、黄色軽石中量。

第12図 SK-05~08・10~13・15~17・19



SK-13

1. 褐灰色土(10YR4/1):しまりなく粘性ない。白色軽石多量、黄色軽石微量。
2. 褐灰色土(10YR4/1):しまりなく粘性ない。白色軽石多量、黄色軽石中量。
3. 褐灰色土(10YR4/1):しまりなく粘性ない。白色軽石多量、黄色軽石少量、炭化物微量。

SK-15

1. 褐灰色土(10YR4/1):しまりなく粘性ない。白色軽石多量、黄色軽石・ロームブロック(1~5cm)少量。

SK-16

1. 黒褐色土(10YR3/2):しまりなく粘性弱い。白色軽石多量、黄色軽石少量。

SK-17

1. 暗褐色土(10YR3/3):しまり弱く粘性ある。白色軽石多量、ロームブロック(1~5cm)、黄色軽石中量、炭化物微量。
2. 暗褐色土(10YR3/3):しまり弱く粘性ない。白色軽石・ローム粒多量、黄色軽石中量。
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3):しまりあり粘性ある。白色軽石・黄色軽石・ローム粒多量、ロームブロック(0.5~5cm)少量、黒色土ブロック(0.5~10cm)微量。
4. にぶい黄褐色土(10YR4/3):しまりあり粘性弱い。白色軽石・黄色軽石・ローム粒多量、黄色軽石ブロック(0.5~3cm)・黒色土ブロック(0.5~5cm)中量。

SK-19

1. 褐灰色土(10YR4/1):しまりなく粘性ない。白色軽石多量、黄色軽石少量。
2. 黒褐色土(10YR3/2):しまり弱く粘性弱い。白色軽石多量、黄色軽石中量、炭化物微量。
3. 暗褐色土(10YR3/3):しまりなく粘性ない。白色軽石・黄色軽石多量。

SK-20

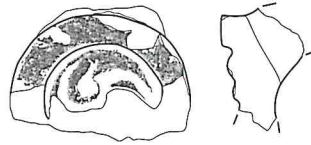
1. 褐灰色土(10YR4/1):しまりなく粘性ない。白色軽石・黄色軽石・ロームブロック(1~3cm)多量。

SK-22

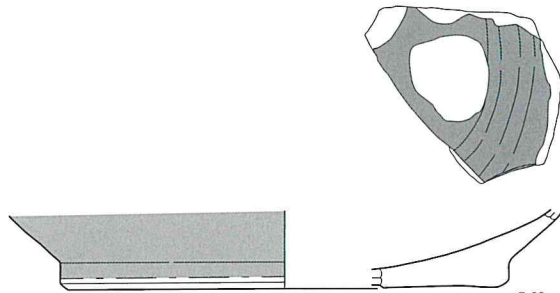
1. 灰黄褐色土(10YR4/2):しまりなく粘性ない。白色軽石多量、ロームブロック(0.5~5cm)中量、黄色軽石中量。
2. 褐灰色土(10YR4/1):しまりなく粘性ない。白色軽石多量、ロームブロック(0.5~3cm)・黄色軽石少量。
3. 灰黄褐色土(10YR4/2):しまりなく粘性ない。白色軽石多量、黄色軽石中量、ロームブロック(0.5~3cm)少量。
4. 灰黄褐色土(10YR4/2):しまりなく粘性ない。白色軽石・黄色軽石多量、ロームブロック(0.5~1cm)少量。

SK-23

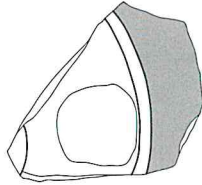
1. 褐灰色土(10YR4/1):しまり弱く粘性弱い。白色軽石多量、黄色軽石・ロームブロック(1~5cm)少量。



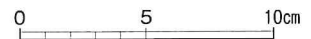
SK-01-1



SK-02-1



■: 施釉



第13図 SK-20・22・23、SK-01・02 出土遺物

第4表 SK-01・02 出土遺物観察表

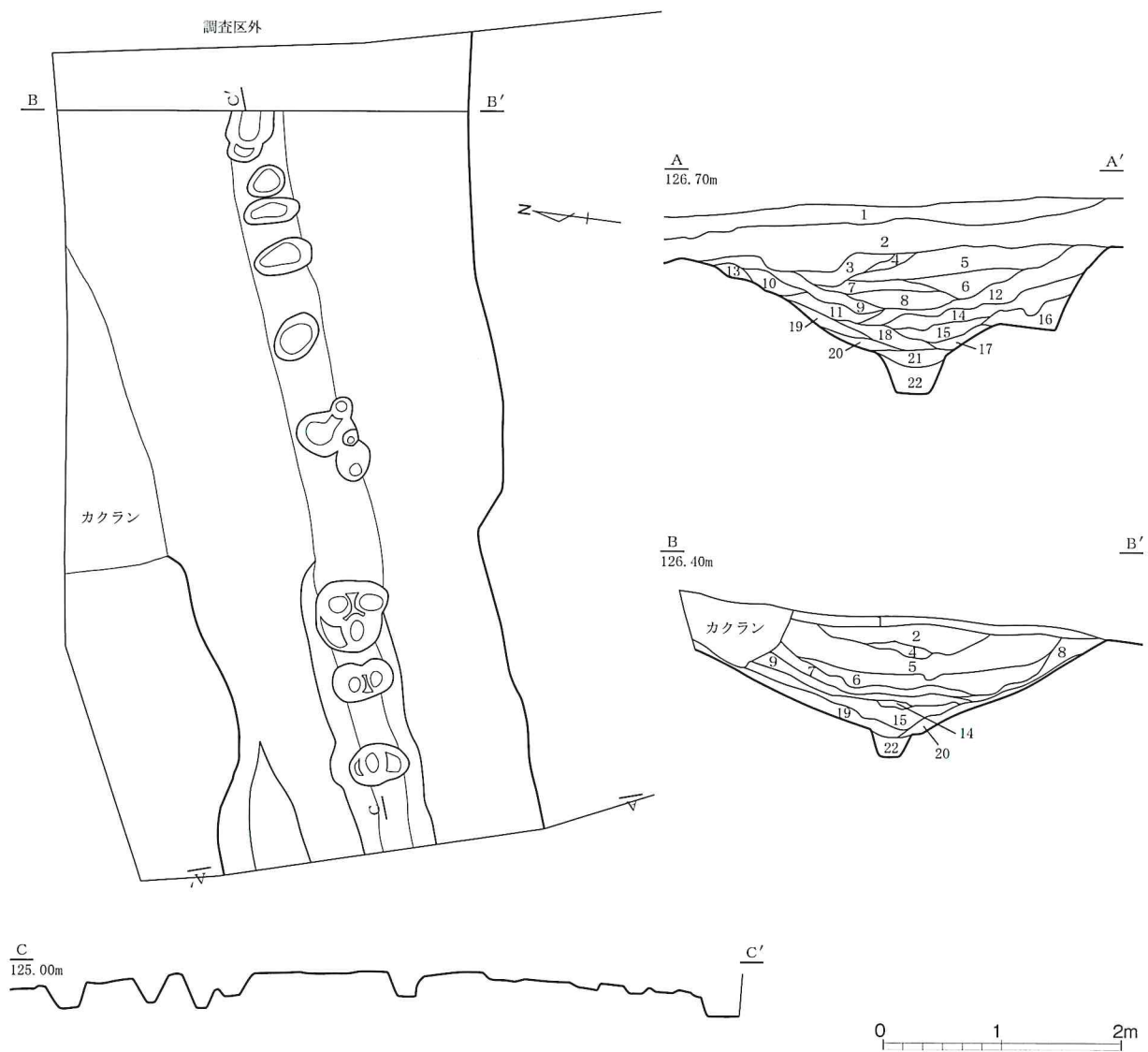
遺構No.	遺物No.	器種	法量	①焼成(石材)②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
SK-01	1	棧瓦	瓦当径(7.2) 底径— 器高(4.9)	①焼し②外-灰、内-灰、 ③白色粒 ④瓦当部1/2	棧瓦軒先部分。 巴文。	
SK-02	1	陶器鉢	口径— 底径(17.0) 器高[3.1]	②外-浅黄、内-灰白、釉-灰オリーブ ③褐色粒 ④底部破片	外面:ロクロ整形。底部外面トチン痕。 内面:ロクロ整形。見込みトチン痕。	内外面透明釉施釉。



## 5 溝

### SD-01 (第14・15図)

位置：X = 38300、Y = -79485・-79490・-79495 グリッド。検出状態：東西方向に直線的に走行する。SI-01と重複し、切り合い関係から本遺構が新しい。北東部はカクランにより削平されていた。規模・形状：上端幅2.72～2.84m、下端幅0.44～0.72m、深さ0.96～1.26mを測る。断面形状は葉研状を呈し、西側では北壁にテラスを有する。底面には11基のピットが認められる。西から東に向けて底面の標高は徐々に減ずる。走行方向：N-70°-E。遺構埋没状態：埋没土上層にはAs-Bの一次堆積層が認められた。As-Bより下層には黒褐色土を基調とした土が自然堆積していた。最下層は非常に硬くしまった褐灰色土が堆積する。遺物：As-B下層より土師器(坏・甕)、須恵器(坏・壙・蓋・甕)、鍛冶関連遺物(鉄塊系遺物)が出土した。帰属時期：出土遺物及び遺構埋没土から9～10世紀代に帰属するものと想定される。



SD-01

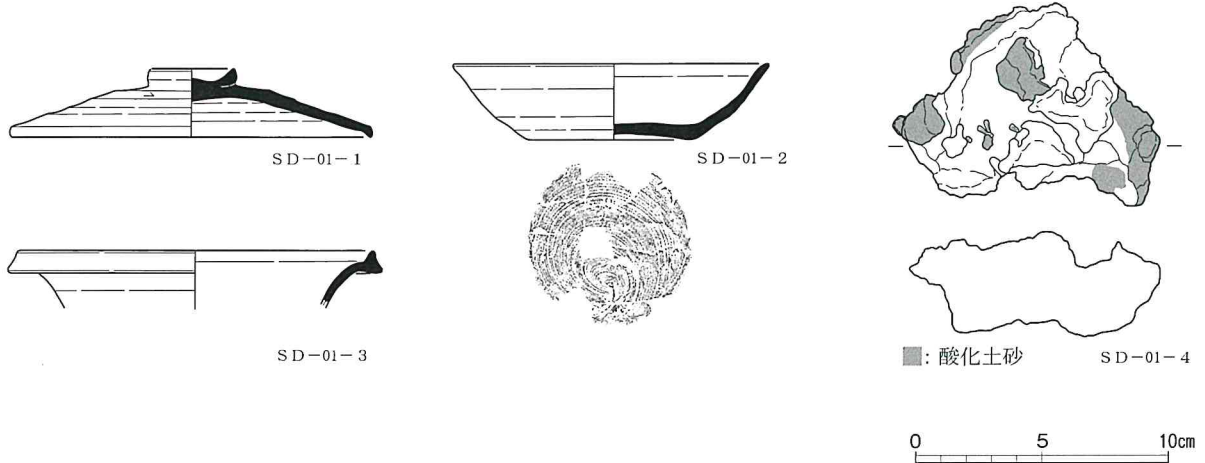
1. 表土。
2. 褐灰色土(10YR4/1): しまりなく粘性ない。As-A・B多量、炭化物中量。
3. 黒褐色土(10YR3/1): しまりなく粘性ない。As-B多量。

4. As-B灰層。
5. As-B軽石層。
6. 灰黄褐色土(10YR4/2): しまりあり粘性ある。黄色軽石多量、炭化物微量。
7. 暗褐色土(10YR3/3): しまりあり粘性ある。黄色軽石多量、褐色土ブロック(0.5～

第14図 SD-01

- 1 cm)微量。
8. 黒褐色土(10YR3/2):しまりあり粘性ある。黄色軽石中量、褐色土ブロック(0.5~3 cm)少量。
  9. 暗褐色土(10YR3/3):しまりあり粘性ある。黄色軽石中量、ロームブロック(0.5~1 cm)微量。
  10. 黒褐色土(10YR3/2):しまり弱く粘性弱い。黄色軽石多量、ローム粒中量、ロームブロック(1~5 cm)少量。
  11. 灰黄褐色土(10YR4/2):しまりあり粘性ある。黄色軽石中量、ローム粒中量。
  12. にぶい黄褐色土(10YR4/3):しまりあり粘性ある。黄色軽石・褐色土粒・褐色土ブロック(0.5~3 cm)多量。
  13. 黒褐色土(10YR3/2):しまりなく粘性ない。黄色軽石大量。
  14. 黄褐色土(10YR5/6):しまり強く粘性強い。ロームブロック(0.5~5 cm)多量、黄色軽石中量、黒褐色土ブロック(0.5~3 cm)少量。
  15. 暗褐色土(10YR3/3):しまりあり粘性ある。黄色軽石・ロームブロック(0.5~3 cm)中量。

16. 暗褐色土(10YR3/3):しまり弱く粘性ある。黄色軽石・ロームブロック(0.5~5 cm)多量。
17. 暗褐色土(10YR3/3):しまり弱く粘性ある。黄色軽石多量、ロームブロック(0.5~5 cm)中量。
18. 黒褐色土(10YR3/2):しまり強く粘性強い。黄色軽石少量、褐色土ブロック(0.5~1 cm)微量。
19. 灰黄褐色土(10YR4/2):しまり強く粘性強い。ロームブロック(0.5~3 cm)多量、黄色軽石中量。
20. 褐色土(10YR4/6):しまり強く粘性強い。黄色軽石少量、2層ブロック(1~3 cm)微量。
21. 灰黄褐色土(10YR5/2):しまり非常に強く粘性ない。褐鉄粒多量、黄色軽石微量。
22. 褐灰色土(10YR5/1):しまり非常に強く粘性ない。褐鉄粒多量、黄色軽石・自然礫微量。



第15図 SD-01 出土遺物

第5表 SD-01 出土遺物観察表

遺構No.	遺物No.	器種	法量	①焼成(石材) ②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
SD-01	1	須恵器蓋	口径 (14.2) 摘径 2.7 器高 2.7	①還元焼 ②外-灰、内-黄灰 ③白色粒・黒色粒 ④2/3	外面:ロクロ整形。天井部右回転ヘラケズリ後摘み貼付。 内面:ロクロ整形。	外面に自然釉付着。
	2	須恵器杯	口径 (12.4) 底径 6.5 器高 3.0	①還元焼 ②外-灰白、内-灰 ③黒色粒・白色粒 ④2/3	外面:ロクロ整形。底部回転糸切り未調整。 内面:ロクロ整形。	
	3	須恵器壺	口径 (14.0) 底径 - 器高 [2.3]	①還元焼 ②外-灰オリーブ、内- 灰オリーブ ③白色粒 ④口縁部片	外面:ロクロ整形。 内面:ロクロ整形。	内面及び外面口縁部に自然釉付着。
	遺物No.	器種	法量 (cm・g) / 特徴			
4	鉄塊系遺物	長さ:8.1、幅:10.5、厚さ:4.2、重さ:283.85g / 磁着有り。酸化鉄が多量に付着する。木炭痕も少量認められる。				

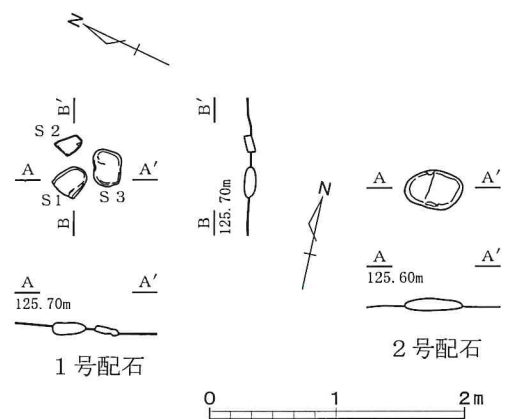
## 6 配石遺構

### 1号配石遺構 (第16図)

位置: X = 38290、Y = -79490 グリッド。検出状態: 3個の安山岩を上面が扁平になるように配した状態で検出された。SP 34と重複し、切り合い関係から本遺構が新しい。遺物: 出土しなかった。備考: 掘り方は認められなかった。南東方向2mに位置する2号配石遺構との関連が想定される。

### 2号配石遺構

位置: X = 38290、Y = -79490 グリッド。検出状態: 1個の扁平な安山岩が検出された。SK-16と重複し、切り合い



第16図 1・2号配石遺構

関係から本遺構が新しい。遺物：出土しなかった。備考：掘り方は認められなかった。

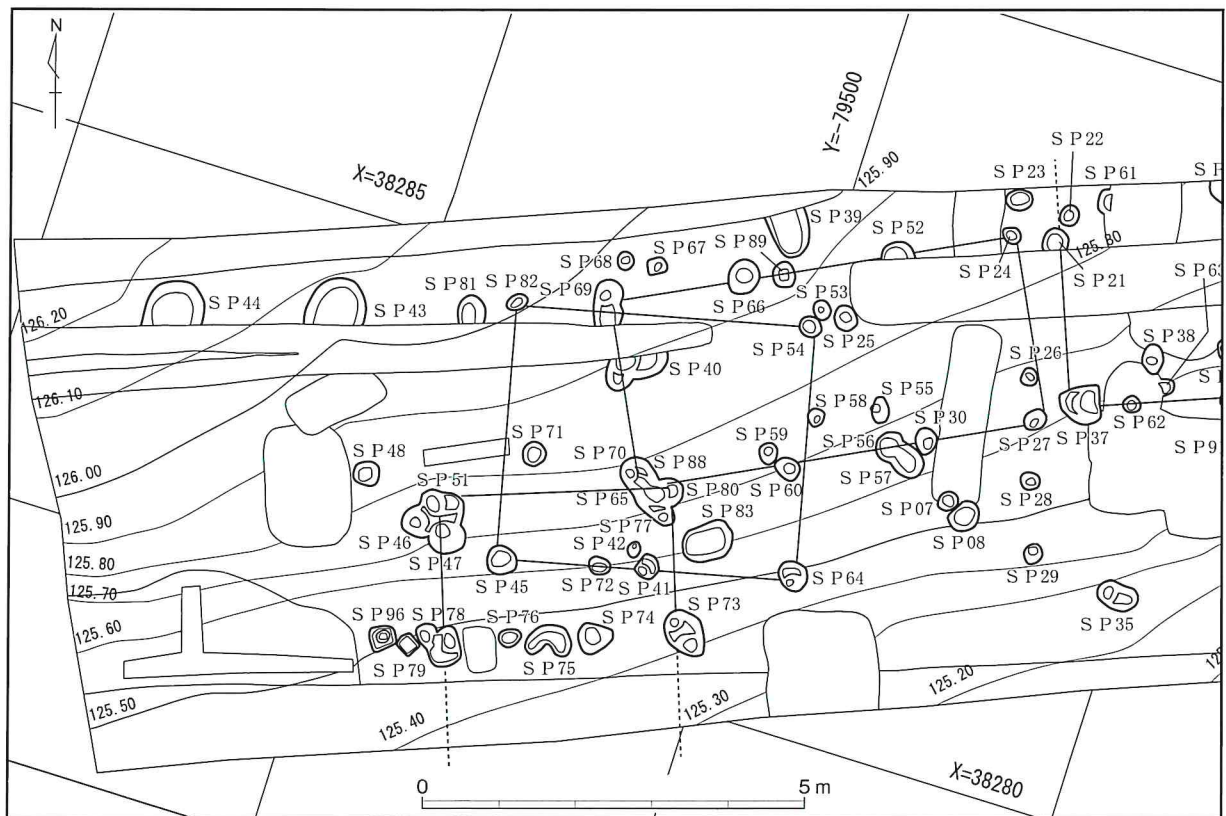
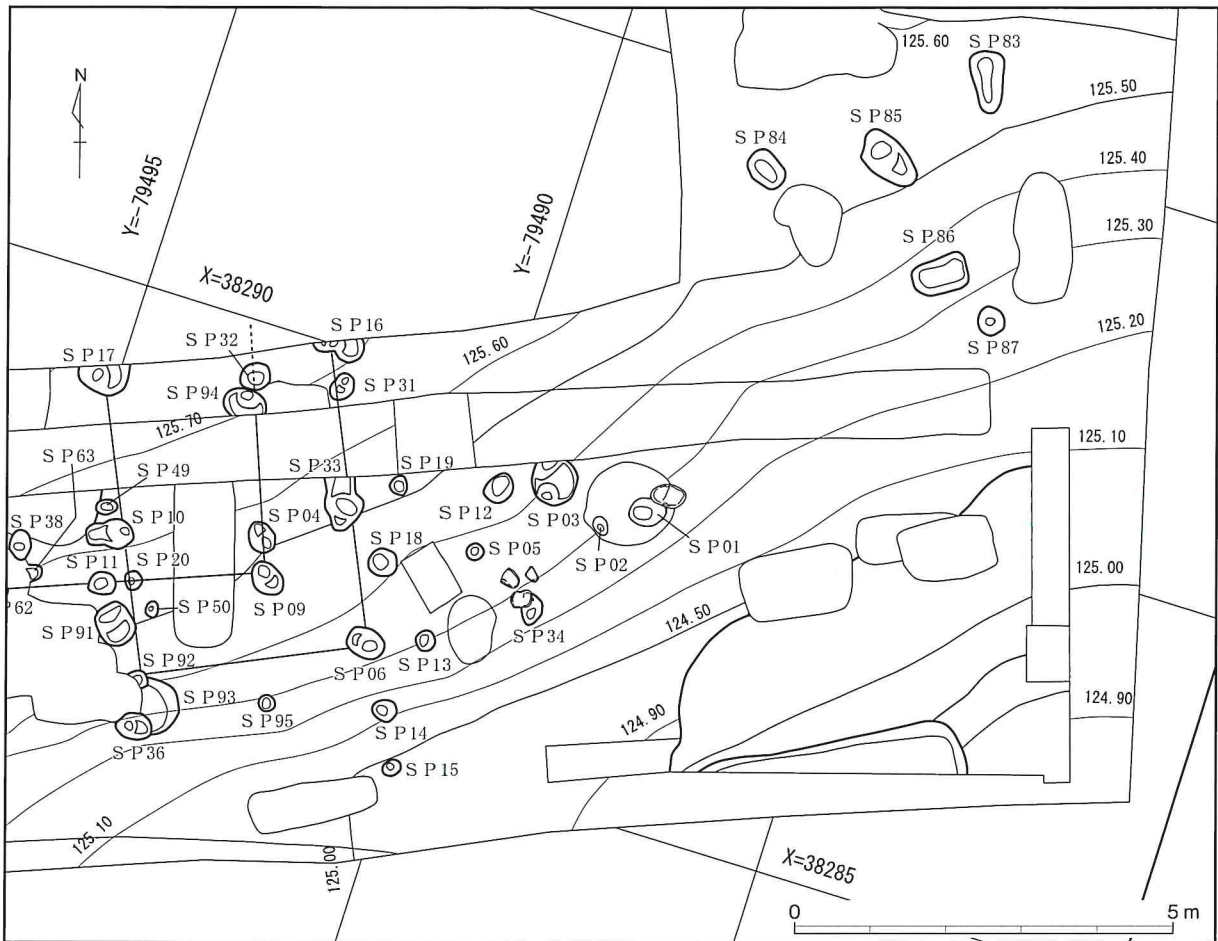
## 7 ピット

96基のピットが確認された。全ての埋没土にはA s - AないしA s - Bを含む。断面形状や深度から柱穴と想定されるものが多数認められた。今回の調査では掘立柱建物跡は5棟検出された（V-3）が把握しきれなかった掘立柱建物跡が存在する可能性が考慮される。遺物は土師器小片が数点出土するのみであった。計測値については第6表に示した。

第6表 ピット一覧表

遺構名	位置	長軸	短軸	深さ	備考	遺構名	位置	長軸	短軸	深さ	備考
S P 01	X = 38290, Y = -79490	48.0	36.0	28.4		S P 50	X = 38290, Y = -79495	22.0	16.0	23.4	
S P 02	X = 38290, Y = -79490	26.0	18.0	42.8		S P 51	X = 38285, Y = -79505	56.0	36.0	38.1	
S P 03	X = 38290, Y = -79490	62.0	(60.0)	44.1		S P 52	X = 38290, Y = -79500	46.0	(22.0)	33.0	S B - 02
S P 04	X = 38290, Y = -79495	42.0	34.0	53.0		S P 53	X = 38290, Y = -79500	26.0	22.0	65.3	
S P 05	X = 38290, Y = -79490	22.0	22.0	28.8		S P 54	X = 38290, Y = -79500	30.0	26.0	29.1	S B - 05
S P 06	X = 38290, Y = -79495	48.0	38.0	40.3	S B - 01	S P 55	X = 38285, Y = -79500	34.0	22.0	35.4	
S P 07	X = 38285, Y = -79500	38.0	24.0	10.9		S P 56	X = 38285, Y = -79500	42.0	32.0	24.7	
S P 08	X = 38285, Y = -79500	44.0	34.0	10.2		S P 57	X = 38285, Y = -79500	(40.0)	38.0	15.1	
S P 09	X = 38290, Y = -79495	50.0	38.0	40.3	S B - 03	S P 58	X = 38285, Y = -79500	24.0	16.0	14.6	
S P 10	X = 38290, Y = -79495	62.0	40.0	66.6	S B - 01	S P 59	X = 38285, Y = -79505	28.0	26.0	15.2	
S P 11	X = 38290, Y = -79495	34.0	30.0	71.9	S B - 03	S P 60	X = 38285, Y = -79500	34.0	26.0	35.9	S B - 02
S P 12	X = 38290, Y = -79490	40.0	36.0	7.4		S P 61	X = 38290, Y = -79500	32.0	(16.0)	67.3	
S P 13	X = 38290, Y = -79495	28.0	26.0	75.9		S P 62	X = 38290, Y = -79500	24.0	22.0	38.9	
S P 14	X = 38290, Y = -79495	30.0	30.0	33.4		S P 63	X = 38290, Y = -79500	(18.0)	18.0	9.7	
S P 15	X = 38285, Y = -79495	22.0	20.0	7.5		S P 64	X = 38285, Y = -79500	40.0	38.0	25.5	S B - 05
S P 16	X = 38290, Y = -79495	66.0	30.0	70.6	S B - 01	S P 65	X = 38285, Y = -79505	(76.0)	40.0	52.3	S B - 02
S P 17	X = 38290, Y = -79500	68.0	(42.0)	85.3	S B - 01	S P 66	X = 38290, Y = -79505	46.0	40.0	67.2	S B - 02
S P 18	X = 38290, Y = -79495	38.0	36.0	58.2		S P 67	X = 38290, Y = -79505	28.0	26.0	44.2	
S P 19	X = 38290, Y = -79495	24.0	24.0	44.1		S P 68	X = 38290, Y = -79505	24.0	20.0	26.6	
S P 20	X = 38290, Y = -79495	26.0	24.0	18.8		S P 69	X = 38285, Y = -79505	(60.0)	36.0	63.3	S B - 02
S P 21	X = 38290, Y = -79500	34.0	(28.0)	32.3	S B - 03	S P 70	X = 38285, Y = -79505	28.0	22.0	51.1	
S P 22	X = 38290, Y = -79500	28.0	24.0	32.9		S P 71	X = 38285, Y = -79505	32.0	30.0	45.8	
S P 23	X = 38290, Y = -79500	34.0	28.0	36.0		S P 72	X = 38285, Y = -79505	28.0	22.0	17.2	
S P 24	X = 38290, Y = -79500	26.0	22.0	40.8	S B - 02	S P 73	X = 38285, Y = -79505	68.0	50.0	29.9	S B - 04
S P 25	X = 38290, Y = -79500	34.0	28.0	50.7		S P 74	X = 38285, Y = -79505	44.0	40.0	22.1	
S P 26	X = 38290, Y = -79500	24.0	20.0	18.2		S P 75	X = 38285, Y = -79505	60.0	42.0	14.2	
S P 27	X = 38290, Y = -79500	32.0	20.0	18.2	S B - 02	S P 76	X = 38285, Y = -79505	30.0	24.0	10.8	
S P 28	X = 38285, Y = -79500	26.0	24.0	19.1		S P 77	X = 38285, Y = -79505	26.0	22.0	48.8	
S P 29	X = 38285, Y = -79500	28.0	24.0	19.5		S P 78	X = 38280, Y = -79505	62.0	44.0	24.8	S B - 04
S P 30	X = 38285, Y = -79500	36.0	28.0	50.1	S B - 02	S P 79	X = 38280, Y = -79505	26.0	22.0	6.8	
S P 31	X = 38290, Y = -79495	38.0	26.0	51.0		S P 80	X = 38285, Y = -79505	38.0	(18.0)	35.0	S B - 04
S P 32	X = 38290, Y = -79495	38.0	38.0	43.2		S P 81	X = 38285, Y = -79505	(38.0)	38.0	61.5	
S P 33	X = 38290, Y = -79495	(70.0)	50.0	35.4	S B - 01	S P 82	X = 38285, Y = -79505	30.0	20.0	16.7	S B - 05
S P 34	X = 38290, Y = -79490	42.0	28.0	15.8		S P 83	X = 38285, Y = -79505	68.0	48.0	35.0	
S P 35	X = 38285, Y = -79500	46.0	34.0	39.5		S P 84	X = 38295, Y = -79490	54.0	40.0	15.6	
S P 36	X = 38285, Y = -79495	48.0	34.0	41.8		S P 85	X = 38295, Y = -79490	90.0	50.0	34.3	
S P 37	X = 38290, Y = -79500	52.0	50.0	37.2	S B - 03	S P 86	X = 38295, Y = -79490	74.0	46.0	28.8	
S P 38	X = 38290, Y = -79500	40.0	36.0	52.0		S P 87	X = 38295, Y = -79485	38.0	36.0	29.7	
S P 39	X = 38290, Y = -79505	(60.0)	52.0	38.7		S P 88	X = 38285, Y = -79505	(81.0)	42.0	31.7	
S P 40	X = 38285, Y = -79505	80.0	(64.0)	43.0		S P 89	X = 38290, Y = -79505	34.0	28.0	36.9	
S P 41	X = 38285, Y = -79505	30.0	26.0	35.7	S B - 05	S P 90	X = 38300, Y = -79490	58.0	40.0	40.4	
S P 42	X = 38285, Y = -79505	22.0	16.0	35.5		S P 91	X = 38290, Y = -79495	56.0	48.0	34.7	
S P 43	X = 38285, Y = -79510	80.0	(64.0)	10.7		S P 92	X = 38285, Y = -79495	25.0	(14.0)	33.8	S B - 01
S P 44	X = 38285, Y = -79510	78.0	(60.0)	12.6		S P 93	X = 38285, Y = -79495	72.0	(48.0)	20.4	
S P 45	X = 38285, Y = -79505	38.0	38.0	33.7	S B - 05	S P 94	X = 38290, Y = -79495	58.0	(40.0)	40.4	S B - 03
S P 46	X = 38285, Y = -79505	40.0	36.0	65.1	S B - 04	S P 95	X = 38290, Y = -79495	22.0	22.0	41.8	
S P 47	X = 38285, Y = -79505	48.0	44.0	19.2		S P 96	X = 38280, Y = -79505	34.0	30.0	11.4	
S P 48	X = 38285, Y = -79505	34.0	32.0	39.5							
S P 49	X = 38290, Y = -79495	28.0	20.0	18.9							

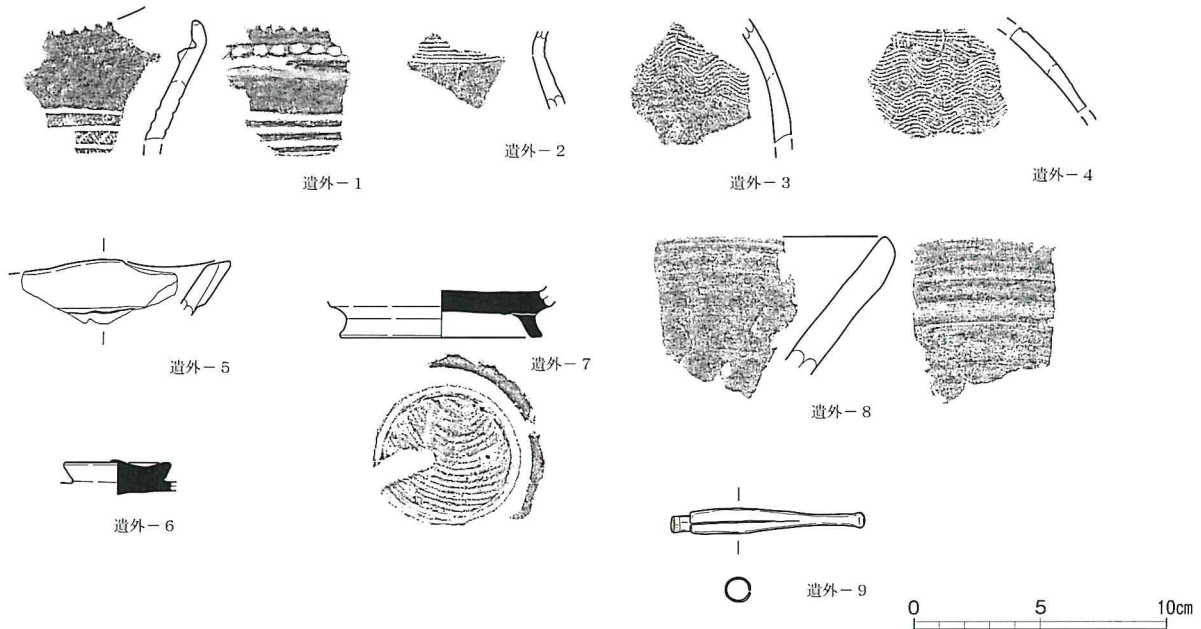
※単位：cm、( ) は残存値。



第17図 ピット群

## 8 遺構外出土遺物

遺構外から縄文時代、弥生時代末～古墳時代初頭、平安時代、中世、近世の遺物が出土している。1は加曾利B1式の深鉢口縁部片である。2・3は樽式土器の甕の体部片、4は壺の体部破片である。5は土師器壺の口縁部片である。6は須恵器蓋の摘み、7は須恵器壺の底部片である。8は瓦器で鉢の口縁部片と思われる。9は煙管の吸い口で羅宇が残存していた。なお、2～5はSD-01埋没土中からの出土であるが遺構との帰属時期が異なることから遺構外出土遺物として扱った。その他の遺物はすべて表土中からの出土である。



第 18 図 遺構外出土遺物

第 7 表 遺構外出土遺物観察表

遺構No.	遺物No.	器種	法量	①焼成(石材) ②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考	
遺構外	1	縄文土器 深鉢	口径— 底径— 器高[4.7]	①普通 ②外—灰黄、内—黄灰 ③チャート・角閃石 ④口縁部破片	波状口縁。口縁端部は内屈する。 外面：単筋RL縄文施文後横位沈線。 内面：口縁端部に刻み。横位隆帯施文後隆帯上位に横位刺突、下位に横位沈線。	加曾利B1式。	
遺構外	2	弥生土器 甕	口径— 底径— 器高—	①普通 ②外—にぶい黄橙、内—にぶい黄橙 ③褐色粒・黒色粒 ④体部破片	外面：6本1単位の簾状文を施文する。 内面：ナデ。		
遺構外	3	弥生土器 甕	口径— 底径— 器高—	①普通 ②外—にぶい黄橙、内—橙 ③角閃石・チャート・褐色粒 ④体部破片	外面：9本1単位の櫛描波状文を施文する。 内面：ナデ。		
遺構外	4	弥生土器 壺	口径— 底径— 器高—	①普通 ②外—にぶい黄橙、内—橙 ③褐色粒・角閃石・金雲母 ④体部破片	外面：8本1単位の櫛描波状文施文後、3本以上1単位の簾状文を施文する。 内面：ナデ。		
遺構外	5	土師器 壺	口径— 底径— 器高[2.0]	①普通 ②外—にぶい橙、内—にぶい橙 ③角閃石・褐色粒 ④口縁部破片	波状を呈する。口縁部に粘土紐を添付し肥厚させる。内外赤彩が認められる。		
遺構外	6	須恵器 蓋	摘径4.2 底径— 器高[1.3]	①還元焼 ②外—灰、内—灰 ③黒色粒・白色粒 ④摘部	外面：ロクロ整形。 内面：ロクロ整形。		
遺構外	7	須恵器 壺	口径— 底径(8.0) 器高[1.9]	①還元気味 ②外—灰黄、内—灰黄 ③チャート・黒色粒 ④底部2/3	外面：ロクロ整形。底部回転糸切り無調整、高台添付後周縁部ナデ。 内面：ロクロ整形。		
遺構外	8	瓦器 鉢	口径— 底径— 器高[5.4]	①良好 ②外—暗灰黄、内—黄灰 ③チャート・角閃石・黒色粒・白色粒・褐色粒 ④口縁部破片	外面：ロクロ整形。 内面：ロクロ整形。		
遺構No.	遺物No.	器種	法量 (cm・g) / 特徴				
遺構外	9	煙管 吸い口	長さ：7.6、幅：1.0、厚さ：0.1、重さ：6.272/ 羅宇残存。				

## VI まとめ

### 1 SD-01について

本遺跡周辺は既往の調査成果から片置(岡)郡衙が存在していた可能性について指摘されている(Ⅱ-2)。今回の調査では当該期に帰属する遺構はSD-01のみであった。ここではその走行方向について補足を加えたい。SD-01の東側については未調査であるため不明である。西側については調査前に実施した試掘調査の際にSD-01より西方約25mの地点に南北方向にトレンチを設定し調査を行っておりそこでは溝状の遺構は検出されていない。以上の点と今回の調査結果を合わせて考えるとSD-01は西に約25mに達する以前に終息するか北へ折れ曲がる可能性が想定される。部分的な調査であるため詳細は不明だが、八幡台地に展開する当該期の遺跡の広がりを確認できた点の一つの成果と言える。

### 2 掘立柱建物跡について

今回の調査では5棟の掘立柱建物跡が確認された。これまで周辺の遺跡においても当該期の遺構・遺物は散見されるものの(Ⅱ-2)、本遺跡のように建物跡がまとまって確認された例は管見に触れない。ここではV-2で示した事実関係に若干の補足を加え掘立柱建物跡の変遷案を示しまとめとしたい。

各遺構の切り合い関係及び建物の主軸の異同や位置関係からSB-01・02、SB-03・04、SB-05にグループ分けし、Ⅲ期の変遷を想定した。

I期: SB-03・SB-04を想定した。SB-04はSB-02と重複しており、切り合い関係からSB-04が古い。SB-03・04ともに調査区外に範囲が及ぶため全容は不明だが、南北方向に棟を揃えた建物配置が想定される。

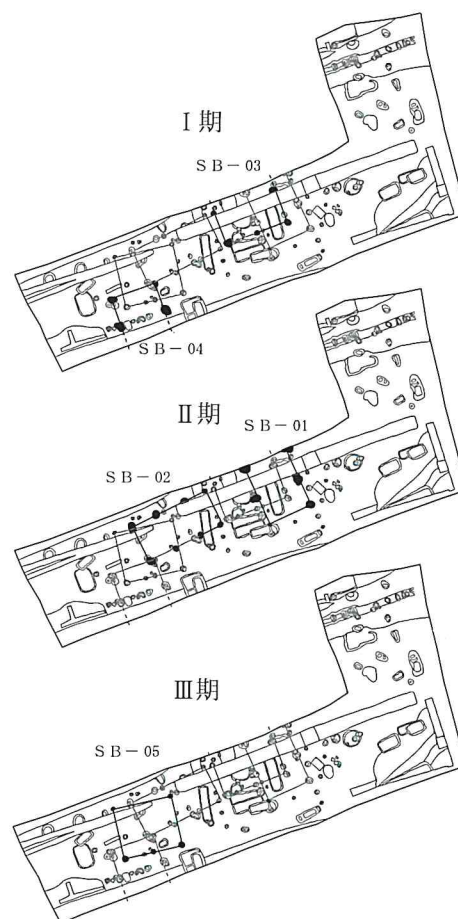
Ⅱ期: SB-01・SB-02を想定した。SB-01は南北棟、SB-02は東西棟となり棟を直交させた建物配置となる。全段階と比べ配置が異なる。

Ⅲ期: SB-05を想定した。いずれの掘立柱建物跡とも切り合い関係が認められないため詳細は不明だが、主軸方位及び平面形態が全段階とは明らかに異なり柱穴規模もやや小規模になることから最も新しい段階と想定した。

掘立柱建物跡という遺構の性格上、遺物の出土量が少なく詳細な帰属時期については不明である。調査時には遺構外であるが、14～18世紀代の遺物が出土している。周辺の調査事例も少ない現段階では、建物の形態や柱穴の埋没土から鑑みて、時間幅があるものの当該期に帰属するものとして考えたい。

#### 【参考文献】

- 田村 孝 1984 『七五三引遺跡』高崎市教育委員会
- 神戸聖語ほか 1982 『八幡中原遺跡』高崎市教育委員会
- 石丸教史ほか 2011 『八幡中原遺跡3』高崎市教育委員会
- 南田法正ほか 2012 『剣崎稲荷塚遺跡3』高崎市教育委員会
- 高橋清文ほか 2013 『八幡中原遺跡4』高崎市教育委員会

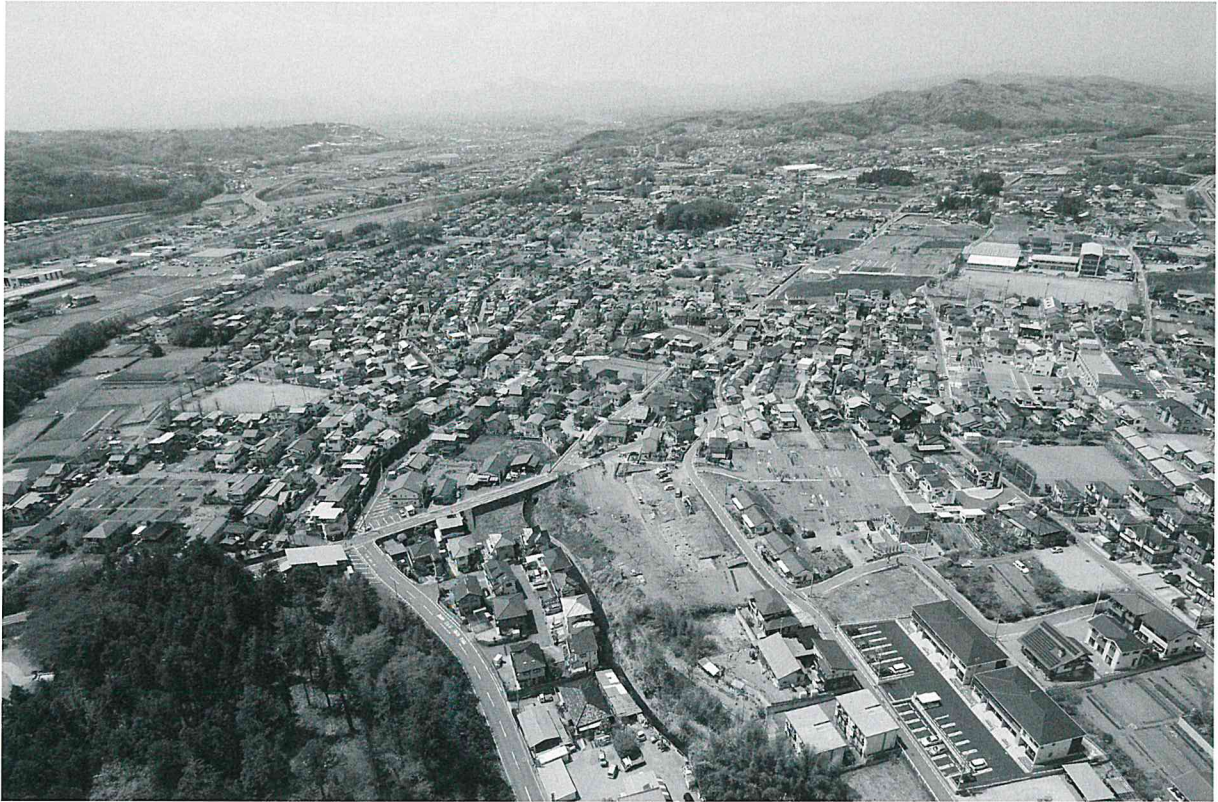


第19図 掘立柱建物跡変遷図

# 写真図版







調査区遠景（妙義山方面を望む）



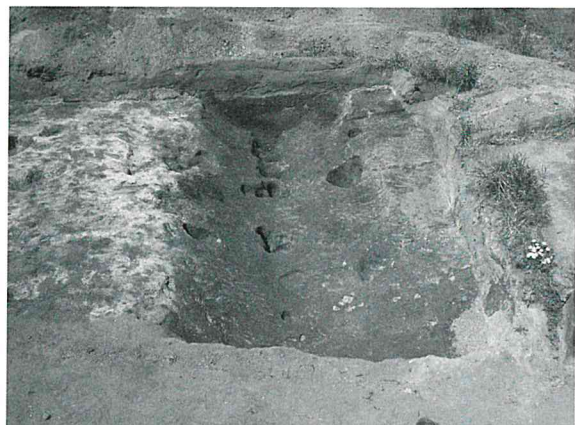
八幡八幡宮と調査地点（上が東）



調査区全景（上が南）



掘立柱建物跡群（上が南）



S I - 01・S D - 01全景(東)



S D - 01底面ビット完掘状態(北東)



S D - 01土層堆積状態(東)



S K - 01・05全景(南)



S K - 02全景(南)



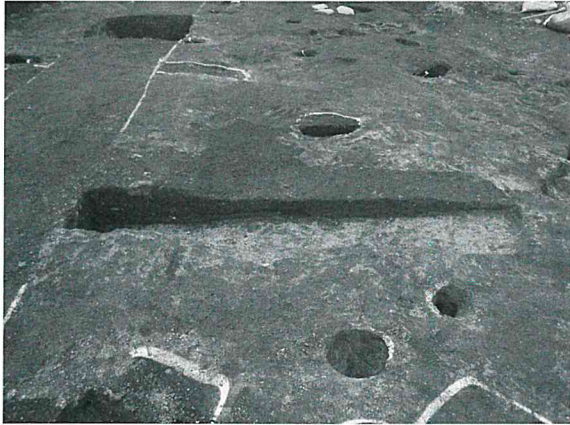
S K - 03全景(北)



S K - 06全景(南)



S K - 07全景(西)



SK-08土層断面(西)



SK-10~13・19全景(西)



SK-15全景(南)



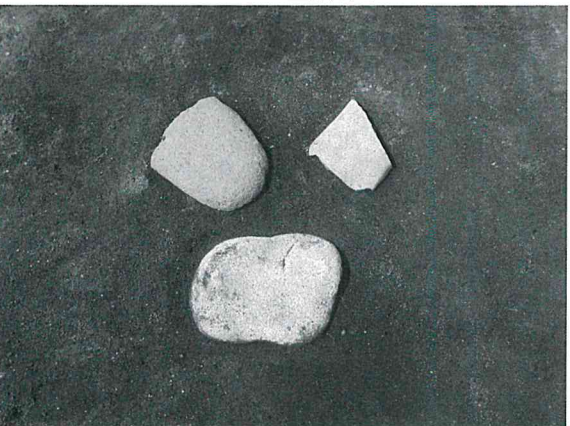
SK-17全景(西)



SK-20全景(西)



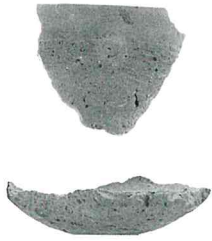
SK-22全景(西)



1号陪石全景(南)



2号陪石全景(南)



S I -01-1



S I -01-2



S K-01-1



S K-02-1

住居跡出土遺物

土坑出土遺物



S D-01-1



S D-01-2

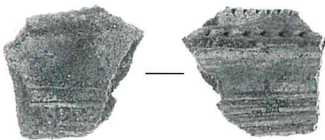


S D-01-3



S D-01-4

溝出土遺物



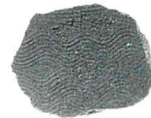
遺外-1



遺外-2



遺外-3



遺外-4



遺外-5



遺外-6



遺外-7



遺外-8



遺外-9

遺構外出土遺物



# 報告書抄録

フリガナ	ヤワタミヤノウシロイセキ		
書名	八幡宮ノ後遺跡		
副書名	宅地建設に伴う埋蔵文化財発掘調査		
巻次			
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書		
シリーズ番号	第335集		
編著者名	田口一郎 伊藤順一		
編集機関	有限会社 毛野考古学研究所 〒379-2146 群馬県前橋市公田町1002番地1 TEL 027-265-1804		
発行機関	有限会社 毛野考古学研究所		
発行年月日	平成26年8月29日		

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡	北緯	東経			
ヤワタミヤノウシロイセキ 八幡宮ノ後遺跡	グンマケンタカサキシ 群馬県高崎市 ヤワタミヤノウシロ 八幡宮ノ後700 番2、701番1	102020	591	36° 20' 30"	139° 56' 52"	20140414 ～ 20140430	約270㎡	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
八幡宮ノ後遺跡		古墳時代 古代 中世 近世	住居跡 掘立柱建物跡 土坑 溝 配石遺構 ピット	1軒 5棟 18基 1条 2基 96基	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶器、瓦器、瓦、鍛冶関連遺物	平安時代の溝を1条確認。 中世以降の掘立柱建物跡5棟を確認。

高崎市文化財調査報告書第335集

## 八幡宮ノ後遺跡

—宅地建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

平成26年8月25日印刷

平成26年8月29日発行

編集／有限会社毛野考古学研究所  
発行／有限会社毛野考古学研究所  
印刷／朝日印刷工業株式会社

